

一 蓮上人近年仰ラレ候御病中ニ仰ラレ候事何コトモ金
 言ナリ心ヲトマテ聞ヘシト仰ラレ候ト云云
 一 御病中ニ慶聞ヲメシテ仰ラレ候御身ニハ不思議ナル
 コト有ラ氣ヲトリナヲシテ仰ラルヘキト仰ラレ候ト
 云云
 一 蓮如上人仰ラレ候世間佛法トモニ人ハカロクトシ
 タルカヨキト仰ラレ候默タルモノヲ御キラヒ候物ヲ
 申サヌカワロキト仰ラレ候又微音ニ物ヲ申ヲワロシ
 ト仰ラレ候ト云云
 一 同ク仰ニイハク佛法ト世體トハタシナミニヨルト對
 句ニ仰ラレ候又法門ト庭ノ松トハイフニアカルトコ

レモ對句ニ仰ラレ候ト云云

一 兼縁堺ニテ蓮如上人御存生ノ時皆摺布ヲ買得アリケ
 レハ蓮如上人仰ラレ候カヤウノ物ハ我方ニモアルモ
 ノヲ无用ノカイコトヨト仰ラレ候兼縁自物ニテト
 申タルト答申候處ニ仰ラレ候ソレハ我物カト仰ラレ
 候悉ク佛物如來聖人ノ御用ニモル、コトハアルマシ
 ク候

一 蓮如上人兼縁ニ物ヲ下サレ候ヲ冥加ナキト御辭退サ
 フラヒケレハ仰ラレ候ツカハサレ候物ヲハタ、取テ
 信ヲヨクトレ信ナクハ冥加ナキトテ佛ノ物ヲ受ヌヤ
 ウナルモソレハ曲モナキコトナリ我スルトオモフカ

トヨ皆御用カ以何事カ御用ニモルノコトヤ候ヘキト
仰ラレ候ト云云

實如御判

蓮如上人御一代記聞書 末

實悟記

實悟記條箇

イニシヘ東山殿野村殿ニテノ事或ハ承及見及申事
等思出次第不同注置條々目錄

- 一 御堂衆ノ事
- 一 綽如上人ノ御時御戸役ノ事
- 一 聲明ハ小原流ノ事
- 一 念珠クルヘキ事
- 一 一堂衆心得行儀ノ事
- 一 佛前ノ花ノ事
- 一 座ニ付ヘキ様ノ事
- 一 佛ヲ拜ム事
- 一 早オカミハタシタルハ見苦シキ事
- 一 ネムラスシテ勤ノ助音スヘキ事
- 一 焼香ニワロキ沉ヲタカセラル事
- 一 ヤライノ事
- 一 阿彌陀堂御影堂參錢ノ事
- 一

勤終ニ人々立サハク事 一皮足袋ハク事如何 一シタ
 ウツハカセラルベキ事 一番屋拵條々事 一寺々ノ開
 山ノ日末寺ニ各齋以下有事 一蓮如上人御建立ノ寺ノ
 事一客人精進ノ事 一客人ニ精進ノ儀破候事 一佗所
 へ御出ノ時モ道中精進ノ事 一同精進タルヘキ日ノ事
 一精進日町中モ魚物不通事 一前住御正忌ノ時非御年
忌時
 夕ハ精進ノ事 一家衆有所ヘヤノ事 一教行信證請
 候事條條有之事 一霜月廿八日ニ御精進ホトキ進上ノ
 事 一唐帽子御カケ候事 一末々一家衆袴著セラレ候
 事 一イニシヘ東山御坊チヒサク候事 一蓮如上人御
 時佛法ノ義ハカリ常被仰冥加儀堅被仰事 一武者小路

(1)

殿御上ニテ人スクナニ小殿原ハ唯二人ノ事 一同御上
 ニテ御相伴時事 一家衆息女物ヨマレ候事下間衆若
 時經論等常ニヨマレタル事 一人志被申點心計御申事
 一代々御前燈明ノ事 一正月十五日御松囃事佗宗難シ
 申事 一正月廿五日ノ事蓮如上人御時ハ毎月御齋有ト
 申人有之 一廿五日御齋前ニ蓮如上人ハ名號三百幅ア
 ソハサレタル事 一二月十五日ノ事 一佛前疊マハリ
 敷ノ所ノ事 一東山野村殿御亭疊ニ上壇ヲ下ラル子
 細ノ事 一御上ニテ一家衆女房衆相伴ノ時ノ事 一廿
 五日朝知恩講式實如上人遊シ候ハヌ事 一代々御影ニ
 幅御カ、ラセラレ候證如ノ御往生ノ御時ヨリナリ祐誓

(2)

申アリタル事 一内陣マハリ敷中比聖人ノキハ三通シ
 カレ下輩衆ツカレ候ハカイサマナルヨシ人々被申事
 一代々ノ御影二幅ニナリ候事 一代々御命日勤ノ事廿
 五日勤ノ事 一實如上人御時ハ七月七日五月五日各へ
 帷子ヲ被下候事 一御本寺御指合時勤ノ調聲人ノ事
 一同勤舌々ノ事 一毎月廿五日ノ式ノ事 一廿二日ノ
 勤ノ儀被仰事 一廿七日勤ノ事 一野村殿南殿ニ持佛
 堂念佛行道堂之御建立有度ノヨシ御物語之事同持佛堂
 勤ノ事 一蓮如上人ヨリ代々御年忌チンニテツトメノ
 事 一昔ノ報恩講様體ノ事 一報恩講ノ間ノ事 一勤
 ノ儀蓮如上人ノ仰實如上人御物語二箇條ノ事 一毎朝

(3)

勤終百遍念佛ノ事 一歸命二字ノ申様ノ事 一本堂漢
 音經ノ事同百遍念佛ノ事 一御影堂短念佛ノ事 一上
 壇ノ衆助音ノ事 一式アソハン候トキ三禮調子ノ事
 一日没ノ時分ノ事 一逮夜ノ時分ノ事 一代々ノ御命
 日朝勤ノ事 一聲明調子ノ事 一實如上人唐帽子カケ
 ラレテ佛前へ御出仕ノ體ノ事 一實如上人一家衆讚出
 候衆へ被仰候事 一正月初七日修正ノ時ノ事 一代々
 ノ御前ノ燈明ノ事 一死人ノ遺物ノ事 一蓮如上人ノ
 御中陰又年忌齋非時ノ配膳ヲサセラレ候衆ノ事 一如
 秀禪尼等往生ノ時實如上人ヨリ御香奠下サレシ事 一
 波佐谷蓮綱等へ俄事ニハ門徒へ法名ヲ出可申由仰ラレ

(4)

シ事 一末々一家衆ニハ名字ヲ出申ト仰ラレシ事 一
齋非時ニ膳クム事 一時ノ太鼓ノ事 一齋非時ノ上ニ
菓子布施引事 一持佛堂立ラル、事 一聖教等ノ外題
書遣ヘキ事 一教行信證ヲヨマセラル、事 一聖人ノ
御戸タラツメラレ候事 一勤行ノ時扇ツカハレヌ事
一報恩講ニ上洛ノ衆ヘ白小袖被下候シ事 一何時ニテ
モ上洛ノ一家衆御禮ノ明ル朝御相伴ノ事 一御堂ニテ
老少聖教ヨミタル事 一御堂衆燈明以下役ニテ跡ヘカ
ヘラレ候事 一日没短念佛ヌ事 一式ヨミ歸候時
ノ事 一衣ノ色クロキ事 一遠國人ヘ被遣肴等ノ事
一御本寺ノ御住持ヲハアカムル事 一御堂ノ打置ヲハ

(5)

ノケラレ卓計ヲカセラレタル事 一御簾ノカケヤウノ
事 一實如上人之御時本尊名號ノ事并經文ノ事 一座
上ニヲカル、人々ノ事 一法義心ニ入タル人ヲ袴御免
ノ事 一一家衆袴ノ儀筑前申サル、事 一一家衆ノ梳
ノ事 一六要鈔ノ事 一淨土具書ヨミ可申由企候ヘト
モ師匠ナク斷絶ノ事 一六要鈔ハヨミ申ヘキ事モ伺申
本ヲ可仕立事モ實如上人ヘ申入候事 一ウツホ字ノ名
號事 一萬ノ外題ノ事 一田舎ヨリ上洛衆相伴ノ事
一御相伴サセラル、禪衣衆ノ事 一代々ノ御命日ノ時
勸座ノ事 一勤ノ後南ノ座敷有時ノ事 一蓮如上人御
時御内衆家ヲ被建候ニ物被下タル事 一同實如上人御

(6)

代御心ハセノ事 一實如上人御時過分ニ物ヲ進上候へ
 ハナニ物ソ必被遣事 一上洛一家衆御禮等被言事 一
 一家衆子共得度ノ禮ノ事 一外人殊公衆四日十五日御相
 伴ノ御精進ノ事 一慈鎮和尚御壽像ノ事 一遠國人上
 洛ヲ儀堅兩御代仰事 一遠國俗人等同御調ノ事 一勤
 ハテ時分ノ事 一廿七日ノ掃除ノトキ下間衆被出候事
 一實如上人御時御堂衆へ可有讚嘆様御文ヨムヘキ様被
 仰出候事 一鐘ノ前ニ本堂ニテ實如上人仰事ニ違如上
 人仰ヲ御物語ノ事 一阿彌陀經初様等ノ事 一毎月廿
 五日ノ事 一實如上人御時五日廿五日廿八日等齋日中
 以下ノ事 一布施ノ引手等ノ事 一實如上人御時常ニ

(7)

御菜三ニ御申付深御斟酌冥加被思召事 一霜月勤稽古
 ノ事 一冥加ノ義第一可存事 一讚嘆申所ニ相違ノ段
 イカニモノ能々可心得被仰事 一違如上人御手水ノ
 儀湯ヲ拵候ヘトモ冥加ヲ被思召事 一實如上人勤行單
 皮メサヌ事 一違如上人朝勤ニ御ハタヨリ物メシカヘ
 タル事 一野村殿ニテ霜月廿八日ヲ女房衆取越申儀无
 之事 一坊主衆法義ノ人被掛御目候事 一親不孝ノ仁
 孝行ノ仁ノ事 一賀州三箇寺壽像證如上人御時ノ事
 一本尊開山裏書ノ事 一霞月縁廊下イナハキノ事 一
 野村殿ニ實如上人御座候時イナハキニテツ、マセラル
 事 一正月十五日ノ閒縁廊下筵敷ノ事 一報恩講前

(8)

進上物ノ事 一精進チカキニ精進入ト申事 一精進ホ
 トキノ事 一女中方ノ事 一家衆有所ノ事 一毎月
 風呂ノ事 一十二月煤ハキノ事 一御亭ノ座上佛法世
 間兩用ノ事 一凡僧方不可振廻子細條々事 一志引事
 一燈心二筋ヲ被用事 一二月十五日法事ノ事 一六時
 禮讚ハ存如上人御代迄也并四遍反ノ事 一御齋御相伴
 等案内ノ事 一男女誰モ御託言申ニ女房衆一切无御存
 子細ノ事 一讚ノ出様ノ事 一實如上人御往生ノ初條
 々被仰置候事 一同時一箇條ノ事 一今一箇條ノ事
 一廿八日以下御命日ニ白小袖キル事 一御住持様御堂
 へ御出仕ノ時御供多ハ不可然事 一蓮如上人御内衆へ

細々被仰候事 一邪法ヲ申仁ヲ生害スルハ不可然事
 一後生ノ御免ト申事何ノ經論ニアルヤノ事 一蓮如上
 人第一冥加ヲ被仰シ事 一蓮如上人ハ不孝不信ノ人ハ
 キラヒノ事 一蓮如上人ハ御膳ト被申トハヤ御用ノコ
 ト思召出候事 一蓮如上人新衣ヲメシ候テハ聖人ノ御
 前へ御マイリ御用ニテ著シ候ト御申候體ノ事
 以上目錄終

實悟記

昔人物語又見及申事等書註申條々

- 一古ハ御堂衆ハ六人候ツルト申六人供僧トテ是ハ平生
精進ニテ候キ妻子モナク不斷經論聖教ニタツサハリ
法門ノ是非邪正ノ沙汰ハカリニテ候ツル由ニテ候
- 一綽如上人ノ御時ヨリ御堂衆ニ下間名字ノ人ヲ被成鑑
取ト申テ開山聖人ノ御厨子ノ役ニテ候ツル由ニ候御
戸ハ御住持御役ナレハ如此由ニ候
- 一當流ノ聲明ハ小原流ナリ總シテ諸宗共ニ聲明ハ小原
千本兩流ヲ本トスル也然ハ圓如上人ノ仰事ニハ下間

名字ノ幼少ノ人ヲ一人小原ノ聲明師ヲ弟子ニナシテ
置ヨク稽古ノ功ユキ候ハ、コナタヘトリテ置テ聲明
ノ譜ヲヨクナラハセ置テ當流ニヨク可覺悟事也ト仰
候キ

- 一實如上人被仰シハ珠數ハタ、モタヌ物ナリクルヘシ
蓮如上人モ御持候トテハ御クリ候シソカシト勤ノ座
敷ニテ仰事候シ霜月廿六日ニ日中ノ間ニ仰キカセラ
レシ御ソハ近ク侍シ實圓ノ下ニ北ニツキ申候トキノ
事也

- 一御堂衆コンカウモハカテ内陳ヲアルカレ候事殊ノホ
カ曲言ト被仰シ總シテ御堂上壇ノ間ヲアナタコナタ

ト少事ノ儀ニアルカレ候事不可然ト被仰候内既開山
聖人ノ座前ナレハ可有其心得也タレヤラン承タルト
(12)

テ語申サレ候ハ堂ノウシロへ堂衆用事アリテ行通フ
路ヲ別ニシタキ事ト實如上人ニ被仰タルト申サレ
タル人候シ

一實如上人被仰シハ蓮如上人前住仰事候シハ何時ヲイ
ハス佛前ノ華ノシホレシハイツ立カヘテモ可然ト被
仰シト實如上人被仰シナリ

一座ニ付ヘキ時ヘリニ衣ノスソカ、ラヌヤウニヘリヨ
リ二寸ハカリノキテ付ヘシ扇ヲモヘリニカ、ラヌヤ
ウニ是モ二寸モノケテ置ヘシ

一佛ヲオカム手ヲアマリアケタルモワロシ又アマリサ
カリタルモアシキナリ袈裟ノムスヒメノ上ニ手ヲ置
タルヨシ

一拜ムニ早クハテタルハ麁相ニ敬ナクテ見苦シキ也心
ニ別ニ替ル心モチハアルヘカラサレトモシトト

一ネムルハ第一ワロシ見苦敷シテ不可然内陳ノ衆ハ老
若共ニ先ヨク勤ヲ付ヘシ助音ナキ不可然トテ實如上
人ハツケウト御堂ニテ勤ノ間ニ御サイソク候前

住證如上人モ付ラレウト仰事侍シ
一焼香ハ蓮如上人ノ御時ハワロキ沉ヲ焼香トテタカセ

ラレ候ヨキ沉ハカウハシク勾候ヘハ憂狂ナル心出キ
不可然トテカウハシカラヌヲタカセラレケルト各物
語候先代ハ如此候事ナリ當時ハヨキ沉タカセラレ候
歟

一御堂ノ上壇ト下壇トノ間ノヤライハ證如上人前住ノ
御代ヨリ出来候實如上人ノ御代マテハナキコトニテ
候御用心ニテサセラレ候御尤ノ儀ニ候佗宗ノ人聞テ
難シ申候事御入候キ

(14)

一阿彌陀堂御影堂ノ參錢ハ昔ヨリ丹後ニ給ハル事ニテ
候ヲ蓮應丹後代ニ寄進被申候明應五年奇特ノ志ニ
テ候トノ御沙汰ニテ候キマツ阿彌陀堂ハカリノヲ寄

進被申候テ又一兩年後ニ御影堂ノ參錢ヲモ寄進被申
上候殊勝ノ志ニテ候ヨシソノ比ノ沙汰ノミニテ候キ

永正初比ノ事也

一御堂勤行ノヲハリニ戸障子ハツシ各立サハカレ候事
實如上人ノ御時ハ見マイラセ候事ナク候キ

一皮足袋ヲハ佗家ニ佛壇ノ内陳ニハ入ス候カ尤ノ事ニ
候當流ニモ御用候ヘキ御事ニヤ

(15)

一勤行ノ時シタウツハハカセラル物ニ候ヤ板コンカウ
ノ緒ノ付ヤウモ二節ニテ中へ足ヲサシ入候ヤウニ仕
候シタウツノ時ノ緒ノ付ヤウニテ候コトニ開山ノ三
百年忌ノ時ハカセラレ侍リキ

一寺内町ノ控ヲ番屋ニヲサセラレ候シ定テ今モ所持セラレタル人アルヘク候歟ソノ内ニ吹物音曲停止ノ日ノ事御佛事七日ノ間毎月廿八日廿五日盆彼岸等停止ノ事ナリ魚賣買ナキ日御遊山ナトノ日御迎人ノ儀等或鐘數ナト被註候シ

一末寺ニモ一寺開山ノ日勤行アリテ齋ナトモ昔ヨリ有之事ニ候然ハソノ住持ハ精進ニテ候キ

一蓮如上人ハ野村殿大阪殿堺御坊越州吉崎播州英賀參州土呂同鷺塚大和飯貝紀州黑江文所ナトハ開山ニテ御入候但鷺塚ハ實如上人ニテ御入候歟

一昔ハ客人公家并武家衆モ精進ニテ汁菜御モテナシ也

魚物ハ不被出ナリ但シ不斷出入ノ輩ソレハサモナク魚物也或ハ御遊山ノ時節野山ニテ樽モタセラル、モ皆精進ナリ然ハ末々ノ愚老コトキノモノ野山へ出申候モ何ソ御樽類歟又ハ小漬ナトモタセラル、モ皆精進ナリ

一實如上人ノ御時山科殿ヨリ大阪殿へ御下ノ時山科一日ノ内ニ晝御休トテ七箇所ニテ御小供御參候ハセケル事アリキ七箇所ナカラ精進ニコシラへ進上候前々如此候

一面向ノ御客人ノ事精進ニテ候ヲヤフレ候事ハ細川右京太夫政元心院大ノヤフレタル事ニ候ソノ初細々野

村殿へ政元被參候ニ始ハ精進ニテ候ツルカ或時政元
 深草瑞林院ニ被申事ハ本願寺へ行テナクサミ活計セ
 ント思へハ精進也魚物ヲ被食候ト聞キ精進ニテ何ト
 モワロシト物語セラレ候ヲ瑞林院野村殿ニテ蓮如上
 人へ被申候へハサラハ魚物ニテ細々來臨ノ事ニテ候
 へハ内者ノ心ニテ候トテソノ後魚物ニ成候テヨリ破
 タル儀式候此政元以外ノ威勢ニテ將軍モ不及ノ體ニ
 候ツル時節ナレハ如此候サレトモ實如上人ノ御代モ
 野山ノソトニテノマカナヒハ精進ノ事ニテ昔ヨリノ
 法儀ヤフラレス候是後代ニテモ加様ニ御座候ハ、佗
 宗出家人御供申サル、義ハ可然様體ニテ御入候キ

一祖師御命日又御佛事中盆三箇日彼岸一七日ノ御客人
 昔ヨリノコトク精進ノ御アヒシラヒニテ候今モ如此
 ニ御入候ハ、外聞ヨク御入候へキ歟出家ノ人ノ御相
 伴ノ時魚物ナト參候事且以ナキ御事ニテ候
 一町中モ御精進ニハ樽ノ肴ニテモ御入候へ御坊中又町
 ヲモ持テ通ル事停止候キ
 一實如上人ノ御時ハ毎年三月廿四日夕供御精進ナリ仍
 テ田舎末寺モ同前ニ候蓮如上人ノ御時モ六月十七日
 如此也ト承リ候キ當時モ八月十二日夕サマニ可有御
 入事ニ候ナリ
 一一家衆ノ物ヌキカヘナト仕候座敷御入候ハテハイカ

、ニテ候野村殿ニテハ御堂北南兩所ニハヤ候キ小便
 所手水桶ナト兩所ニ候キ是又今モ御入候ハ、尤一家
 衆辱可存候有所ナクテ各々一段迷惑仕候
 一教行信證ハ運如上人ノ仰ニハ廿歳ヨリ内ニハヨマス
 ヘカラス候若時ハ何トシテモ聊爾ニ存スル間廿ヨリ
 以後ヨマスヘシトノ仰候間愚老モ廿五ニテヨミ申候
 兄弟中悉慶聞坊被敎事候由被申候テ我等モ讀ハテ候
 テ宿ヘマカリ歸候時前住様へ請習申候テ今拙者兄弟
 中ニモ皆々教候トテ落涙候ツル事ニテ候キ慶聞ハ大
 概空ニ一部ハ被覺タルト見エ申候キ第一始一丁御住
 持へ請申候事トテ各請申候拙者モ少シ實如上人へ請

申候御目カスミ候トテ始少シ請申次ヲ圓如上人へ一
 丁ハカリノ末ヲ請申候キ實從順興寺同前候キ近年人々
 御堂ニテ請申事ニ被申候拙者ナトハ南殿御亭ニテ請
 申候キ南殿ト申ハ野村殿ニテ運如上人御隱居方也北
 殿ト申ハ實如上人當御住持御座候方ニテ候キ
 一霜月廿八日御齋モイマタ過サルニ近年ハ御精進ホト
 キノタメトテ魚物ヲ各進上候アマリニハヤクミエ申
 候野村殿ナトニテ見及申サ、ル御事ニ候併廿八日ノ
 晩ハ魚物モマイリ候ヤウニウチ見エ候體見苦シク存
 候古モ一向ナキ體ノヤウ申人モ候キ是ハ御停止ニテ
 モ見ヨク御座候ヘキ歟

一唐帽子ハ四十五六歳ヨリ代々カケラレ侍ルトミユ必
 スソノ比ヨリ各へモ御免候シ蓮乗寺本泉五十三歳ノ時
 御免蓮綱寺松岡四十七歳ヨリカケラレ候蓮證報恩寺坊主衆御
 免候テ御堂ニ於テモ勤行中懸ラレ候同袴モ御免ニテ
 白衣也竹一檢校ニモ袴ヲ御免候テ白衣ニテ候絹袈裟
 ヲモ御免ニテ勤行ニ出候間蓮如上人前住ノ御出立ニ
 同シク蓮證ト竹一ト兩人モ蓮如上人ノコトク同シ出
 立ニテ侍シト各語申侍リキ
 一末々ノ一家衆袴ヲ著候事古ハナキ事ニ候ヲ越前ノ吉
 崎立候テ明ル年蓮如上人御越年候シ文明正月二日照
 護寺立永年始ノ御禮ニマイリ候時著袴候テソノ後供

御ニメシ候ニモ年始ナレハ著袴御相伴申候テソノマ
 ヲヌキカネテ著シ候事ニテ候ト立永後ニハ岡崎ト申所ニ隠居候テヨ
 ト岡崎主ノ雜談被申モ聞申タル事ニテ候サラニ上ヨ
 リ著シ候へト被仰タル事モナクテ今ニ加様ニ著シ候
 ト語リ被申候キ然間永正十年ノ比野村殿へ實顯超勝寺
 賢心瑞泉寺上洛申候報恩講ニアヒ被申候時袴ヲ一七日
 ノ間ヌカセラレ侍シ兩人外アマタ末ノ一家候ツル由
 ニ候皆々袴ヲヌカセラレ白衣ニテ侍リキ實如上人ノ
 仰ニテ侍リキ一七日ノ間齋非時モ如勤行一家衆各加
 様ニ候キ一七日スキテ北國へ下ラレ候時近年著セラ
 レタル事ニテ候ホトニトテ又著セラレキ北國加州ニ

テモ著仕へキカト被申候シニソレハ重テ可有御思案候マツ此間ノ如ク末寺ノ間ニテハ白衣タルヘシト被仰候テ北國ニテハ白衣ニテ候ツルカ袴ヲ著セラレタル方モアリケニ候是ハ勤行ナトニ著セラレ候事ミクルシク佗宗ノ人モ難シ申事ニテ候

一昔東山大谷殿ナトニテハ御坊中ニイツクニ女房衆御入候トモ見エス候キト被申候大谷殿ハ本堂阿彌堂三間四面御影堂ハ五間四面也チイサク御入候ツル事ニ候慶聞坊指圖ヲセラレ候ツル御亭ト御堂トノ間竹亭トテソノ間モ二間ハカリ也ツルヲ蓮淳ト拙者ト持申候キ

一蓮如上人ノ御時ハ晝夜不斷佛法ノ事ヨリホカノ儀被仰候ハヌヤウニ候シト各被申候第一冥加ノカタ殊ノ外ニ被仰シト各被申候事ニテ候當時ハ佛法方ノ事サへ被申出候人サへ且以候ハス候冥加ト申事ハカリソメニモ被申出候人ウケタマハラス候勿體ナキ事候也

一野村殿ニテ武者小路殿ニハ女房衆十人ハカリ比丘尼衆四人ニテ若殿原衆ハ二人下間源五同名源十郎刑部卿父兩人ハカリニテ候キイツレモ若年ノ時ハ御上ニ奉公候シ廿年ハカリヨリ後ハイツレモ面ヘイテラレ御亭ニ伺候被申候キ

一御ウヘニテ供御ナトノ各一家衆女房衆御相伴ノ時ハ

雙方へワケラレテ一方ハ法師衆一方ハ女房衆ニテ候
ツルコトニ候

一家衆ノ娘トモモ昔ハ和讃正信偈ヲモ經ヲモヨミ申
御堂ナトニテ連經ノ時御簾ノ内ニ本ヲ持テ付ラレ候
ツル事ニ候男子ハ沙汰ニ不及各々ヨミ申候キ當時ハ
サモ候ハヌ事ハ如何殿原衆殊更下間名字若年ノ衆ハ
脇ノ座ニテ經ヲモチヨミ付ラレ候シ也先年廿七日ノ
逮夜ニ實如上人ノ御時アマリニ正信偈ナカク御入候
時助音衆コトク次ノ句ヲ忘レ候テ切タル事候シ
源五郎源左衛門下間只一人付ラレテツ、キ申事御入候キ又
ソノ後モ次ノ句ヲ忘レタル事候ツルソノ時ハ上壇ニ
(25)

只一人教行寺蓮華候テツ、ケラレ候事モ御入候ツル
一人ノ志申サレ候事ツ、キテスキノナキコト候ツルニ
點心ハカリムシムキウトンハカリ被申タルコト候キ
一家衆直綴ニ扇持テ袈裟ハカケス候ヒツル當時ハ見
及申サス候間書付申候

一代々ノ御影前ハ燈明四日十九日廿日廿九日廿四日十
四日十八日ハカリマイル抹香モマイリ候ソノ時ハ廿
五日ハ前任ニテ御入候間不及申候證如上人ノ御時ヨ
リ毎朝燈明ノマイリ候ハ尤ノ御事ト申アヒ候同正月
ノ修正七箇日彼岸七箇日本尊ノ御前ノ蠟燭ヲトホサ
レ候事證如上人ノ御代ヨリ始候是又尤ノ御事ト申候
(26)

一永祿三年正月十五日ニ御代ニ一度松囃御入候ツルハ
 佗宗ノ人々殊ノホカ難シ申候御事ニ候一日御延引候
 テ十六日ニ御入候ヘハ珍重ニ御入候事ニテ候釋尊御
 命日ニ法事ノ御入候ハヌ事ヲコソ難シ申候松囃ハ如
 何ナル御事ヤト申事候

一正月廿五日ニハ蓮如上人ノ御時ハ毎年三箇日御佛事
 御入候ト申仁モ御入候覺不申候ト申仁モ御入候毎月
 廿五日ニハ御齋ハ御入候ツルト聞エ申候實如上人ノ
 御時ハ前任ニテマシ候間ソノソケヲ不存候又六
 月廿五日ニ御齋御入候事ハ注置キ候物ミエ申候
 一蓮如上人ノ御時ハ廿五日御齋前ニ名號ヲ三百幅マテ

アソハサレ候ト注タル物御入候キ然レハ廿八日十八
 日御齋前ニモ百幅二百幅名號ヲアソハサレタル事ニ
 候間實如上人ノ御時又同前ニ御入候キ

一二月十五日ニ勤行齋ナト御入ナキヲ佗宗ノ聞及候テ
 殊ノホカニ不審ヲナシテ難シ申候事ニテ候カ如何ノ
 御事候ヤ蓮如上人ノ御時ハ勤御入候ト申人モ候圓如
 上人モ又難シ申事御聞候一段ト勝事ニ思召實如上人
 ノ御時可有御申トノ御事ニテ候キ既ニ盆モ彼岸モ就
 佛說御入候ウヘハ涅槃ハソト御入候ハテ不可叶御事
 ニテ候ツル諸宗一同涅槃儀有事ニテ候由ニサフラフ
 一堂ノ内陳ニ疊マハリ敷ノ事越中瑞泉寺ハ綽如上人ノ

御時御建立ニテ候間疊マハリ敷ナリ然シテ一亂ニ燒
 テ後草屋ニ坊中立候時常ノ押板ニ仕候テヨリ近年如
 此此寺ヲ引テ立候アヒタ本泉寺又マハリ敷也ト申候
 三河國土呂播磨國ノ英賀兩所共ニ蓮如上人御建立疊
 マハリ敷ノ内陳ニテ候坊主衆ノ所モフルキ所ハ疊ハ
 マハリ敷ノ所多ク候ヘトモ一亂以後ハ草屋ニ立候テ
 皆々常ノ押板ニテ候本泉寺始ハ内陣疊マハリ敷ニテ
 候ツルカシケク燒ケ五六度火事ニ及候テ後ニハ草屋
 ニナリ常ノ押板ニテ候
 一昔ハ東山ニ御座候時ヨリ御亭ハ上壇御入候ト各物語
 候蓮如上人御時上壇ヲサケラレ下壇ト同物ニ平座ニ

サセラレ候ソノ故ハ佛法ヲ御ヒロメ御勸化ニツキテ
 ハ上臈フルマヒニテハ成ヘカラス下主チカク萬民ヲ
 御誘引アルヘキ上ハイカニモく下主チカク諸人ヲ
 チカク召テ御ス、メ有ヘキトテノ御事ニテ候ト被仰
 候テ平座ニ御沙汰候有カタキ御コト、諸人申タルト
 テ各宿老衆カタリ被申候實如上人モ御物語ヲ承候事
 ニテ候定テ今モ存タル人候ヘク候ナリ
 一女中方ニテ一家衆同女中衆ヒトツニ供御ナト御入候
 時ハ女中衆ハ内方一家衆ハ庭ノ方左右ニワケテ座ス
 山科ニテ御入候キ當時ハ女中衆ハ上ニ御入候テ男方
 衆ハ下ニ御入候ヤウニ候昔ハ左ハ御入候ハテ對座ノ

心ニテ候キ

一蓮如上人御往生ノ砌ハ御堂ニテ廿五日早引御入候キ
 ソノ後兎角候テ一周忌第三年ノ比ヨリ阿彌陀堂ニ法
 然上人ノ御影ハカ、リ申候事候實如上人ノ御代ヨリ
 廿五日朝ノ知恩講式ハアソハサレヌ事ニ候永正初比
 山田光教寺蓮誓實如上人へ被申入候ハ何トテ知恩講
 式ハ前住ハアソハサレタル事ニテ候ニ被遊候ハヌソ
 ト尋申サレ候へハ御返事ニハ何トモ節カ成カネ候ト
 被仰タル事ニ候キノ趣人ノ語ラレ候アヒタ蓮誓へ
 尋申候へハ左様ニ仰事候ツルト物語慥ニ承候事ニ候
 一代々御影ヲ二幅ニナサレ候事證如上人前住御往生已

(30)

後融誓慶壽院殿サセラレタル事ニ候前ニハ一幅ニ七代ノ
 御影御入候キ八代ニ御成候アヒタトテ二幅ニサセラ
 レタル御事ニテ候歟佗流ナトニハ七代ノ外別ニ畫事
 候由申候カ但シ如何事候ヤ

(31)

一御堂内陣開山聖人三百年忌ノ比昔内陳三間ノ座ノ通
 ニ疊シカセラレ候ツレトモ下座ノ心ニテ一家衆下輩
 ノ衆ツカセラレ侍リ烏丸殿ノ意見ニテ御入候ツル歟
 カイサマナル由各申候キ佗宗ニハイク通モ押板キハ
 ヨリウシロ方へ下座ノ方へ敷候テハ佛ノキハカ上座
 ニテソトノホト下輩ノ由申事候今面五間ニテ御入候
 間昔ノ如ク三間ノ通疊シカセラレ一家衆著申テモ可

然御事ニ候ヤラン然ハ則上首著候テモ可然御入候ハ
ンヤ然レハ後ノ方ハ下輩ノ著座勿論タルヘシ

一代々ノ御影二幅ニ成申候事ハ證如上人御往生候テヨ
リ慶壽院殿永鎮ノ御料簡候前ハ一幅ニ六代御入候ツル (32)

事ニ候ソノ後二代御影ノセ被申候テ八代御入候事ニ
テ候天文廿三年以來ノ事ニテ候

一代々御命日ニ正信偈クリ引ニ成讚ノ終ユリノナク成
候事ハ證如上人ノ御時ヨリノ事ナリ實如上人ノ御時

マテ正信偈クリ引ニアラス少ハヤク御申候讚ノ終ニ
モユリ御入候事ニテ候キ廿五日ニ蓮如上人ノ御命日

ナカラ法然上人御命日ニ候アヒタ何トソ可有御座事

候ヤ蓮如上人ハ山科殿大阪殿ノ開山ナリ法然上人ノ
御命日ニハ蓮如上人ノ御時マテハ逮夜日中齋御入候

ツルト各被申候實如上人ノ御時ニハ前住ニテ御入候
間逮夜日中眞ニ御入候間法然上人ノ御命日儀式マキ

レ申候テ此比ハ无分別候蓮如上人ノ御時ニハ法然上
人御命日儀式御入候シ由各被申候アヒタ此比モソノ (33)

儀可有御入候歟トソ各被申事ニ候

一實如上人ノ御時ハ毎年イロノ帷子ヲ下間上野助
宿ニテ五百サセラレ縫立ラレ候同名兵庫助宿ニテ二

百以上七百ノ分サセラレ五月五日ト七月七日不斷伺
候ノ座頭三人猿樂四五人北國ヨリ上ラレ候一家衆遠

國ヨリ上洛候坊主衆又不斷御齋被申候出家十人ハカリ以下ノ衆へ被下タル事ニテサフラフ

一宿老衆物語申サレシハ御本寺ニハ勤ノ調聲人御例カ御堂衆同宿衆ナトニハ初メサセラレス必ス御留守ナトノ時ハ一家衆ニ初メサセラレ候事ニテ候ヨシ申サレ候虚言申サヌ衆ノ物語ニテ候ツル事

一御本寺ニ昔ハ朝勤ノ正信偈舌々ニ御申候ハ正月朔日ト七月十五日ト二度ナラテハナク候由ニ候キノホカハ正信偈舌々ニハアラスハカセニ御申候事ニテ候ト物語候キ上古ニ加様ニ御入候事ニ候定テ子細御入サフラフヘク候

一蓮如上人ノ御代ニハ毎月廿五日ノ勤ノ後ニ知恩講式ヲアソハサレ候キ實如上人ノ御時ヨリアソハサレヌ候蓮如ノ御時モ何事ソ御指合ノ時ハ式ハアソハサレ候ハテ早引ニテ御入候由ニ候

一廿二日ハ早引ハカリ御入候ツルト被申サフラフ蓮如上人ノ仰ニ今日ハ太子講式ヲアソハサレタク候ト度々仰事サフラヒツルト各宿老衆物語ニ被申候實如上人ノ仰ヲモ承候キ

一廿七日モ毎月兩師講式ヲ如廿五日常ノ勤ノ座ニテサハリニテモ廿五日廿七日ノ式ハアソハサレ候由ニサフラフ御堂ニ七高祖ノ御影カ、リ申タル時モ候ツル

蓮如上人御往生五六年ハ御堂ニカ、リ申候七高祖ニ
テハ御入ナクテ法然上人ヲノケラレテ六高僧ニテ野
村殿ノ本堂ニカ、リ申タル事ニテ候

一野村殿南殿ニ念佛行道堂ヲ御立候テ念佛ヲ行道ニ折
々オン申アリ度候ト蓮如上人度々仰事候ツルト宿老
衆モ物語被申候實如上人モ蓮如上人ノ仰トテ御物語
候ツルヲ數度承候キ其時分ハ永正十三年夏南殿御亭
ノ庭ニ水ヲタ、ヘラレ候ヲ半分ホトウメラレテ持佛
堂ヲ立ラレ候キヤネハコケラフキ本尊ハ興正寺門徒
ノ人本尊ノ木佛ヲ寄進申タルヲスヘラレ候キ其時コ
レハ行道堂ニテ侍ラント各申候キ然トモ左候ハテタ

(36)

、ノ持佛堂ニテ兩脇三尺餘押板ニ一方ハ蓮如上人ノ
御影ニ三具足燈臺以下如常一方ニハ蓮祐禪尼ノ御影
カ、リ三具足以下アリ五日ノ朝ト毎月勤行ニ御出候
テ實如上人御調聲アリ廿五日正信偈又念佛正信偈ノ
時モアリ讚三首五日ハ正信偈舌々ナリ讚三首ナリ詳
月ノ時ハ逮夜日中華束モ打敷モアリ助音何時モ同御
堂衆二人一家衆内陣衆ハカリマイリ助音申候ナリ
一蓮如上人御年忌三年七年以下ノ一七日ノ御佛事ノ時
ハ南殿昔亭ニテ一七日毎日三箇度勤亭ニテ御堂ノ後
勤アリ調聲ハ一家内陳衆老若トモニ一遍カハリテ申
ナリ助音衆毎月五日廿五日ノ如シ亭ノ佛前蓮如上人

(37)

ソ御影華束打敷アリキ初中後ノ日中ニハ實如上人御
出ニテ御調整アリキ實如上人ノ御時御中陰同前タリ
キ證如上人ノ御時ヨリ无此儀ナリ

一報恩講ノ事御文ニモアソハシヲカレ候コトク速夜ス
キ候ヘハ人ヲコトク出サレ御影堂ニ一人モ人ナ
キヤウニナリテノソミノ人五十人三十人殘候ヤウニ
見エ候人多キ時ハ御堂衆坊主衆手蠟燭紙燭ヲトホシ
持テ人ヲ出サレ候テ門ヲハタテ候御影前ニハ五十人
三十人ニテ第一坊主衆改悔ニテ次ニソノホカノ人一
人ツ、前へ出ラレ坊主衆ノ中ヲワケラレヲカレテ前
ニス、ミ諸人改悔候間一人ツ、ノ覺悟申サレ聽聞申

候ニ殊勝ニ候シ縁ナトヨリ申候ハ不可然候一大事ノ
後生ノ一儀ヲ縁ノ端ナトヨリ被申候ハ不可然トテ一
人ツ、前へ出テ改悔名ヲナノリ高ラカニ被申候テ一
人々々ノ覺悟モキコエ殊勝ニ候キ當時ノヤウニ五十
人百人ツ、一度ニ安心トテ被申候ヘトモワケモキコ
エス忍々シキハカリニテ何タル事ノタフトキトモ義
理ノ相違モ聞エス候事ハ前代ナキ事ニテ候

一七日ノ間ハ佛法ハカリニテ世間ノ物語ノ一言モナ
キヤウニ候ツル蓮如上人ノ御時ノ事ヲハ皆々被申候
又ハ實如上人モ報恩講中ニハ蓮如上人御代ノ事ヲハ
御物語候御身ハ不信ニ御入候ト申无辨ニテ物語ヲモ

不申候ト被仰候キ齋非時ノ上ニハ大概御法談候キ勤
 行ノ上ニモ時々御法談候キト蓮如上人ノ御時ノ事被
 申候キ實如上人ノ御時モ初中後ノ齋ノ上御法談候キ
 一家衆齋非時前ニハ寄合法義談合候キ當時ハ且以无
 其儀候

一勤ニ蓮如上人常ニ仰事實如上人御物語候事數々御入
 候キ忘申候正信偈ヲ付候ニ初ニ法藏菩薩トイフヲホ
 サウト付ルハワロシホフ藏ト付ヘシ又廻向ノ末往生
 安樂國ノハシメワウト口ヲヒロケ申ハ聞ニクシヲウ
 生トイフ心ニ申ヘシトコレラハ常ニ細々被仰シト御
 物語候キノホカ仰无限事ニ候

一念佛ヲカロク申ヘシ讚ヲモカロクイタスヘシト條々
 仰事侍リキ毎朝勤ノ上ノ百遍ハ代々ノ報謝ノ心ニ候
 百遍ヨリタラヌモワロシアマルモワロシト仰事候ナ
 リ

一淨土和讚ノ終ニ歸命セヨノ命ノ字ウノカナヲワリテ
 申ハワロシウセヨトキコユ聞ワロシウノカナソトカ
 ロク云ヘシト仰也加様ノ事アマタアリキ
 一御本堂ノ阿彌陀經ハ嵯峨本トテ彌陀經ノスリ本候漢
 音ヲ付タル本ニテ候綽如上人アソハサレタル阿彌陀
 經ヲ披見申候ツルニモ嵯峨本ノコトク御付候テ如此
 嵯峨本ノ如ク毎朝スヘシト奥書ニアソハシヲカレ候

キ此本ハ漢音ハカリニアラス吳音モ少マシリ唐音モ
 アリクタラヨミトテ聖德太子ノ百濟國ヨリ取寄ラレ
 シヨミニテ候間クタラヨミト申ニテ候當時ハチトカ
 ハリ申候歟古ヘ圓如上人御稽古候ツル件ノ嵯峨本ニ
 テ御稽古候キ當時ハ吳音オホクマシリタルヤウニ候
 阿彌陀經念佛百遍ヨリアマリ候ヘハ實如上人ハ物ヲ
 御ナラシ候テ御成敗候シタ、百遍ヨシト被仰候キ
 一御影堂ノ毎朝ノ短念佛ハ古ハナカク御入候キ陀佛ト
 ハキコエス阿佛ト御申候ヤウニ陀ノ字ヲタラテ御申
 候キ子細アルヘシ

一昔上壇ノ人衆一家衆ハ阿彌陀經以下ナニヲモ助音被

申候キ當時ハ一向助音イタサレス无言ナルコトイハ
 レナキ御事ニ候ヤ但シイカ、
 一式アソハシ候トキ三禮一向キコエ申候ハヌ事イカ、
 御事候ヤ實如上人ノアソハシタルトキハアキラカニ
 諸人耳ニキコエ申候少ハカスカニモナルヤウノ時モ
 御入候シ圓如上人ハウチ上テアキラカニ候キヒクカ
 ラヌ物ニテ有ヘキ事ト仰候キ佗宗ハ何宗モ式ノ調子
 ニ出候昔ハ何レモ高ク出サレ候キ
 一日没モ昔ハ七時打アリシ事本式也日ノ没スル時ノ聲
 明也然ルヲ永正七八年ノ時分ヨリ八時ニナリタルヤ
 ウニ御座候アヒタ則チ末寺ニモ八時ニナリタル事也

大阪殿ニモ永正八年ニ有之

一 遠夜ト申モ昔ハ七時過半時也大略六時以後アリタル事也實如上人ノ御時モ大略六時分廿七日廿四日ノ遠夜アリツル事ニ候普請ノ時ヲソク打鐘候ヘハ普請衆アカリ候トテ遠夜ヲハヤクサセラレ八時ニ成候キ普請ノアカリノ鐘ヲ七時過ニツカセラレ候テ八時ニアリツル事也遠夜ハヨルカ本トミエ候也善導和尚ノ行事ノ時分ニ候也

一 毎月ノ代々御命日ノ朝勤正信偈ノ終クリ引ハ證如上人ノ御時ヨリ如此讚ノ終リユリノナキ事同御代ヨリ被定也實如上人ノ御時ハスコシ眞ニ御入候キ平生ノ

勤モ少眞ニ實如上人ノ御時ハ御入候キ但不同ノ事候キ

(43)

一 實如上人ノ御時ハツヨク調子サカリ申候間タカク被_レ出候ツル事候故ニ中山黃門宣親小原ノ聲明師名仁語候ツルトテ物語候ツルハ聲明ハサノミ高カラヌ事ニテ候ト申タルト物語申サレテヨリ高クハサノミ御沙汰ナク候ツル

一 實如上人唐帽子カケラレテ佛前へ御出仕ノ體ハカケサセラレナカラ御出候テ座ニ御付候テ御オカミ候ハントテ帽子ヲ御トリ候テ御オカミ候テ勤ヲ御初候テサテ帽子ヲカケラレテ又廻向終ニ御取り勤ハタサレ

御オカミ候テタ、レサマニオンカケ候テオン立候ツル事ニテ候

一 實如上人ノ御時蓮藝ヲ御使ニテ一家衆贖出候衆ニ可申トテ被仰候シハ實如上人御出シアルヘキハ念佛ヲ申果テシツカニ御出シアルヘシ各ハ申シハテハニ南无阿トイフ時カロク出サレ候ヘト被仰出候シアマリハヤキモワロシト仰事候シヲ覺申候ソノ、チ又如覺ヲ御使ニ同前ニ被仰出候ト如覺モ申サレキ

一 正月初七日ノ修正ノ時代々ノ御影コトク懸候時御鏡マイルニミナク御前ニ卓ヲ置レスカンナカケニ御鏡スハルニ前任ノ御前モ同シヤウニ候ヲ此近年

前任ノ御前ニハ卓ヲカレ候事古見及申サス候注置候物ニモコトクノ御前同前ニ卓ナシト注置申サフラフ

一代々ノ御前ノ燈明ハ實如上人ノ御代マテハ御命日ニハカリ四日十九日廿日廿九日廿四日十四日十八日ハカリトモサレ候ツル證如上人ノ御時ヨリ不斷トモサレ候是ハ尤ノ御事ト存サフラフ抹香モ同前ニサフラフ歟

一人々下々ノ衆ニテモ候ヘカシ死人ノ遺物ナトニ小袖ノ類進上候ヲハ蓮如上人ハソノ志ニ齋申サレ候日中トノアヒタニ面織物板物ナトニテ候ヘハ俄ニ打敷ニ

サセラレ聖人ノ御前ニシカセラレタル由ニ候ソレモ
打敷ニ成候ヤウノ物ニ取テノ事ニ候染物ノ紋アル物
ノ事ニテハ候ハスサフラフ

一 蓮如上人ノ御中陰中又一週忌第三年廿五年ノ比マテ

加州若松本泉寺蓮乘并蓮悟内者下間大進并植六郎左衛

門波佐松岡寺蓮綱内下間上總同源十郎并堯藤左衛門

山光教寺蓮誓内下間下野于時部此等ヲ召イタサレ齋非

時ノ配膳ヲ山科殿ニテハサセラレ侍リキ是ハ何モ若

時被召使タル者トモニテ候トノ事ニテ候ソノ後モ一

周忌第三七年マテ如此候キ

一大永元年二月五日ニ如秀禪尼本泉寺蓮乘女中往生ノ時二月

下旬比實如上人ヨリ御弔トテ御堂衆淨頓ヲ若松へ下
サレ御香奠五百匹下サレ候キ波佐谷ノ如宗禪尼蓮綱女中
永正十一年夏往生ノ時モ御堂衆ヲ御弔ニサシ下サレ
御香奠實如上人ヨリ被下侍リキ同年十月ニ光教寺如
專蓮誓女中往生ノ時同御堂衆御弔ニ御香奠被下候キ同年
十二月愚老カ妻了忍往生シ候ニモ御堂衆被下へキノ
由被仰出侍シヲ本泉寺蓮悟野村殿ニアリ合テ留申御
香奠三百匹被下侍リキ古ハ如此御入候キ當時ハアル
ヘカラサル御事ニテ候ヘトモ古ノ事ヲ申候ハカリニ
候同年二月七日教行寺蓮中女中御弔ニ御堂被下候ツル事
同前

一 波佐谷蓮綱山田蓮誓若松蓮悟三人ハ自門徒ノ事ハ不
 及申佗門徒直參ノ人ニテモ候ヘ俄事ナトニ入候事候
 ヘハ法名ヲ出シ可申由蓮如上人ノ仰ニテ出シ被申事
 存知候間實如上人ヘ拙者伺申候テ俄ニ人ノ所望候事
 候アヒタ出シ可申歟ト申入候ヘハ三人ト同前ニ出シ
 申候ヘト被仰候アヒタ拙者モ出シ申事ニサフヲフ
 一 興行寺蓮惠實名 兼英松尾玄喜實名 兼泰兩人實名可申入候由頼
 被申候時外記ニ文字反音相尋注申入候時教恩院殿末
 々ノ一家衆ニハ名字ヲ出シ申セト被仰候テヨリ少々
 五人三人ヘハ實名愚老カ俊ノ字トリテ出シ遣候キ
 一 齋非時ニ膳ヲクム事昔ナキ事也諸宗共ニ當時ハクミ

候ホトニ是ニモ如是膳ヲクム事ニ候ト實如上人齋ノ
 上ニ御物語候シ事ヲ覺申候信證院殿七年ハ永正二年
 ニテ候ソノ御佛事前ヨリ膳クム事出來候永正五年ヨ
 リコレノ齋非時ニモクマセラレタル事ニ候
 一時ノ太鼓野村殿ニテ二所ニ太鼓アリ永正十年ノ比ナ
 リ曉七時晝日沒八時ヲヨクソロヘテ打ヘキ由被仰付
 一 處ニハ香ナクテ一所ヲキ、テウツナリ
 一 齋非時ノ上ニ菓子アクヘキ前ニ人ノ志ノ布施ハ引ナ
 リ永正十一年ノ比人齋ノ上ニ布施引レシニ上ヘノ御
 布施ヒカレテ一家衆坊主衆マテヒカレテ俗人ノ人々
 ニハ无之然而不同ナル事ノ又見苦キ事モ候ツルトテ

人ノ不審ノ儀候ツル間御前ニテハ无用トテソノ比ヨ
リ停止候テ各々別々其人ノ所へ引へキ由教恩院殿ノ
仰ニテソノ人々座敷宿所へヒカセラレタル事ナリ近
年ハヒカセラル、事候歟

一持佛堂ハ野村殿ニモ昔ヨリ御入候へ共永正十三年四
月ニ結構ニ立ラル、南殿御亭ノ庭中ノ池ヲナカハウ
メラレ横二間長三間半ニ疊ツメシキマハリ敷ニアラ
ス九重座ノ上ニ木像ノ本尊ハ興正寺門徒寄進申候御
厨子ヲノケラルヘキニテ候ツルカ結構ニ見事ニテ候
ツル間トテ御厨子ナカラスヘカナトヒラ半金子ナル
ニテ候キ本尊脇ニハ南ニハ蓮如上人御影北ニハ蓮祐

禪尼聊チイサク新敷ヲカケラレ廿五日ト五日トニ朝
ハカリ讚三首毎月有之ヤネハコケラ葺厚サ四寸五分
板敷ハ南殿御亭ノナケシノ上一尺ハカリニ候ツル此
立ラレ候ツル間御亭愚老候ツル事候持佛堂タチテ御
本尊スヘヲカレ供養カマシキ事何事モナシ予廿五歳
ノ時ノ事也

一聖教等ノ外題ハ我本ニハワレ〜カキ候由候サモ候
事候ヤ申入候テ御免候テカク事ト宿老衆物語候間教
恩院殿へ教行信證外題其外聖人ノ御作鈔等ノ外題申
入候時所望候ニ可書遣歟ノ由申入候へハ可書遣ノ由
直ニ被仰候申入時ハ以筑前法橋申入候シ御免ノ由被

仰候アヒタ以惡筆所望人ニ書遣事ニ候

一教行信證ヲハ昔ハ若年ノ人ニモヨマセラレ候キナレ

トモ信證院殿仰候ハ若時ハ何トシテモ聊爾ニトリア

ツカヒノ儀アルヘク候アヒタ廿歳以後ヨマスヘキ由 (61)

被仰定タル事ニテ候由各宿老衆物語候キ仍ヨムヘキ

モノハ以奏者申入可有御免ノ由被仰出候一家衆ハ第

一ノ初一丁ハカリ從御住持請申事大法也然ハヨミ果

メ御禮志次第ニ申上候

一昔ハ聖人御戸ハタト立ツメラル、事无之候明ラル、

コトノミ繁候所ニ御門徒中ノ間ニ申事候ツル問答ニ

マケ候口惜トテ兩人マテ開山聖人ノ御前卓ノキハニ

テ腹ヲ切事有之實如上人ノ御代永正ノ初比ノ事ニ候

ツノ砌ヨリ御戸ハタテツメラレ候事候本來聖人ノ御

戸ハ御住持ノ御役ニテ候ヘトモ事繁候間御代官ニ一

家衆下間丹後等明ラレ候綽如上人ノ御時ハ鎔取ノ役

人下間名字一人被定侍リキ

一勤行ノ時内陣ニテ夏扇ツカハレヌ事ハ近年ノ事ニ候

前住蓮如上人第三回忌七年ノ時各扇ヲ勤行中老若共 (52)

ニツカヒ候キノ後永正六七年比ヨリ實如上人冥加

ノ方思召候御事候ヤ勤行中ニ扇御ツカヒナキマ、各

家中衆モツカヒ候ハス候ニ其後永正十年ノ夏炎天ニ

實如上人顯證寺蓮淳ニ炎天ノ比アツク候ヘキニ扇ツ

カハレ候へト被仰實如上人モ扇ツカハセラレ各モ扇
ツカヒ候ツルカ又ソノ後實如上人御ツカヒナク候マ
、各モツカハス候テ此比モツカハヌ事ニ候齋ノ時ハ
各モツカヒ候事ニテ候

一報恩講ニ上洛シ會申候一家衆霜月廿日比白小袖一ツ
被下候キ愚老兄弟中愚老ナトモ被下候サノミ未々ノ
衆ニハ被下タル事モ覺不申候キ

一何時ニテモ候へ兄弟中又上洛ノ一家衆御禮申候明ル
朝御上ニテ御相伴ニ供御被下候御汁二菜四五ニテ菓
子ヲチタカニテ三五色御入候キ又二三日ノウチニ御
亭ニテ御相伴供御被下汁二菜三五色菓子二三色ニテ

御入候キ

一野村殿ノ御堂ニテハイカナル朝モ五六十人百人ハカ
リ坊主衆子共又ハソノホカ人ノ子共又ハ老者入道ノ
ヤウナル人ナラヒキテカシマシキホトニ和讚正信偈
經論聖教ヲヨム人オホク候シカ當時ハ一向ナキ事ニ
候是ハイカ、ノ儀ニ候ヤ

一御堂衆ノ勤前ニ焼香抹香等ヲ本尊聖人ヘマイラセテ
跡ヘカヘラレ候事古ハサモナカリシト申人モ候愚老
ナトモ覺不申候ソノマ、聖人ノ御前へ出テ下壇ヘカ
ヘラレ候ヒツルカ聖人ノ御前ヲ通ラシトテ返ラレ候
テ南ノ方ヘイテラレハ聖人ノ御前ヲハ通ラテハカナ

フマシク候ヤ如何

一 毎日日没ノ短念佛ハ上ラレスト各覺タルト申人候愚

老モ左候ツルヤウニ覺申候總シテ短念佛ハアケヌコ

ト、申ナラヒ候

一式ヨミニ聖人ノ御前へ御マイリ候ハ北ヨリ御マハリ

候テヨミ果ラレテハ南へ御カヘリ候也蓮如上人モ若

御入候時南へ御マハリ候テ本座へ御カヘリサフヲフ

也ト申候實如上人ハ五十餘年ノ時分ヨリハ南へ御マ

ハリ候ハテ北ノ本座へ御歸リ候シ事也左リへ御マハ

リ候ハヌハ御位上ノ心歎

一直綴ナトノ黒染ノ色クロキ不可然候トテ深く曲言ノ

由蓮如上人ハ仰事候キサレハ世間ノ外人ニハクロキ

ヲ著シ一家衆ハ被出候事候トキ著シタルヲ御覽セラ

レ近比々々殊勝ニ候ト被仰テイヤ殊勝ニモ候ハス候

ヲレハ彌陀ノ本願コソタフトク候へ更ニタフトクモ

ナキソト常ニ被仰侍シト各宿老衆語り被申候キイカ

ニモ、當流ノ儀ハウス墨ナルカ肝要カト被仰教信

沙彌ノ作法タルヘキト常ニ被仰候也

一 遠國ヨリ坊主衆御門徒上洛候時御見參ノサカナナト

ニ餅養サセラレ候ニ鹽カラク味ワロク仕候ヲ一段カ

タク曲言ト仰也遠所ヨリハル、ト上洛ノ人ナト能

相ニ仕候事曲言ト仰事也或時遠國衆御見參ノ時煮餅

ヲコシラヘ申候由申ヲ取寄ラレキコシメシテ御覽セ
ラル、ニ鹽カラキ事言語道斷ト被仰コシラヘタル人
ヲモ御折檻候テ曲言ノ仰也蓮如上人被仰付候ト實如
上人ニ御物語ヲ承候也

(56)

一實如上人御物語ノ次テニ被仰事ニハ愚老カ耳ヲ引ヨ
セラレテ仰ニハ本寺ノ住持モツ者ハハシニ目鼻ヲ付
タルヤウナルモノナリトモ皆門徒以下ノ人ハ賞翫ス
ヘシトコ、ロエアカムヘシ聖人ノ御代官ヲ申身ニテ
候アヒタ敬ムヘキカ肝要也加様ノ事ハコト人ニハイ
フマシオ主ナレハコソイヘ弟ニテ候間イフソト仰侍
ル也御言ヲソノマ、シルシ申也恭ナクアリ難ク存侍

ルコト也此段三度カ愚老ヲカク侍ル比仰事候ナリ

一野村殿ニテ御堂ノ卓ニ打置ヲハ悉ノケラレテ卓ニナ
サレキ永正七年ノ事也相阿彌申事ニ押板ノ上ニ打置
ハ不被置候疊ノ上ニ華立ノ類ナトヲ置候時打置ヲハ
置サフヲフ押板ニハ不置候ト申ニヨリ悉卓ニナサレ
候打置ハ下スカス中ホトニハ文カ穴ヲモホリタルニ
テ候

(57)

一御簾ハ二間三間共ツ、ケ懸候ニハ柱ノミユル物也柱
ヲカクサスカ、ルハワロシ佛神ノ前ニハ外ニ鎗ヲサ
ケ常ノ座敷ニハ内ニ鎗ヲカクル也御簾ヲアケ候ニハ
兩人左右ニナラヒアケ候ト申候

一 實如上人ノ御時ハ本尊御影ノ御禮名號御文ノ御禮申候代物ヲハ別ニヲカセラレ不辨疲勞ノ人ヲ御扶助候シ事也難^キ有事ニテ候又ヨクホトコスヘシ^クヨクタモツヘシ^クトハ經文也常ニ蓮如上人ノ仰事アリシ文也施スヘシトハ人ヲアハレミ出スヘキ也ヨクタモテハトハ志ニ人ノマイラスルノハ難^レ有ト思ヒテ取ヘキナリト常ニ仰事也ヨク^ク人ヲ哀ミ施シタマヘトシルヘシトノ儀ナリ仰事也

一 昔ハ法義心ニ入信心ノ人ヲハ座上セラレタル事ニテ候キト各物語候ソノ證據ハ法敬坊ハ前ニハ御下部ニテ御輿カキタル人ニテ候ヘトモ召上ラレ座上サセラ

レ坊主衆座上ニテ候キ近年ハ遠國次第ニ座上サセラレ候事候

一 坊主衆ニモ佛法ヲ心ニ入嗜ム人々ヲハ袴御免候テ白衣ニナサセラレ候キコト近代モアリ

一 吉野殿ニテ或^ル人下間筑前法眼玄永ニ尋申候ニハ坊主衆ヲサヘ袴御免候テ白衣ノ人御入候カ何トテ御一家衆ニハ御免ノ御方モ御入候ハヌソト尋候ヘハ玄永ノ返事ニ御一家衆ニハ袴ヲメサセラレ候ハヌ事ニテ候キ御一家衆ノワレ^クニメス御事ニテ候間御存知ナキ事ニテ候マ、ユルシマイラセラレ候ハヌ事ニテ候歟ト存候御一家衆御袴勤行ナトニメシ候事ハ佗宗ノ

人モミクルシキ事ト申サレ候諸宗ニナキ事ニテ候ト申サレ候キ

一御一門ノ椀トテ昔ヨリ椀各別聊モ下輩ノ人ニモツカハレサル椀御入候事ニテ候當時モ御入候由ニ候コノ椀ヲ興正寺ノ蓮秀ノ前ヘスヘ候テ蓮秀タヘラレタル事候キコレヲ御覽セラレ蓮如上人大ニ曲言ノヨシ仰仰其椀ヲメシヨセラレ御前ニテ火フキ竹ニテ御テツカラ悉ク打クタキ給ヒ候キ聊ノ事モ御用ノ物トテアタニモサセラレサル事ニテ候ツルカ此椀ノ事ヲハ一段ト堅ク被仰タル事ニテ候ト各宿老衆物語ニテ候キ今モ存知ノカタク有之事ニテ候一家衆ノ椀トテ佗

家ノ人ニハ一向ツカハセラレヌ事ニテ候當時ハ聊未斷ニモ御入候歟蓮如上人ノ御時此椀ノ事堅ク被仰タル事ニテ候佛法ノ義ニ付テ一家衆ヲモ不肖ノ人ヲモカクノコトク執シマシケル御事ニテ御入候間末代モカハラス可被仰付事候ナリ

一六要鈔ヲハ當時ヨム人ナク笑止トノ御事蓮如上人御七廻ノ御佛事ノ後俄ニ實如上人被仰出候テ顯證寺蓮淳本泉寺蓮悟常樂寺如覺三人ニヨマセラレ侍リシソノ後モ各御免ニテ候當時是モ兎角候ハ、ヨム人斷絶候ヘキヤ

一永正十五年ノ夏淨土ノ本書四帖疏ヲハ各ヨミ申候ヘ

トモ具疏善導御作分ハヨム人ナク候間ヨムヘク候テ
愚老興行セシメ弟ニテ候本善寺實孝順興寺實從同心
ニヨミ候ハント興行仕候ヘトモ師匠ナク候シヨミ様
存タル人ナクテ候既ニ斷絶事勝事ノ儀候也

一六要鈔ハ本コシラヘ候コトモヨミ申事モ申入テ仕候
教行信證ノ註ナルニヨリテ同前ニ仕候愚老ハ實如上
人御往生ノ十日ハカリ前ニヨミ申ヘキ事モ本ヲ仕立
ヘキ事マテモ申入候キ

一ウツホ字ノ名號ハ泥ニテ書繪師ノ所ニ本御入候以上
四幅ノ分歟大幅三六字名號少キナル共ニ四幅御入候
野村殿ニテ御影堂ニ南ノ押板ノ中ニ不斷カ、リ申候

ハ蓮如上人御筆泥カキノ无導光名號讀ハ前一行蓮如
上人アソハシニ行メヨリ光教寺蓮誓ニ書セラレタル
事ニ候蓮誓面目ノ事ニテ候

一三部經外題ハ上卷ハ无量壽經上下卷ハ同下トアリ觀
經ハ觀无量壽經小經ハ四紙彌陀經ト也又聖教ハ外題
モ本文モ蓮如上人大概アソハシテ實如上人ヘマイラ
セラレ侍リキ

一田舎遠國ヨリ上洛ノ一家衆ハ實如上人ノ御時ハ初ハ
御上ニテ供御下サレ候ソノ後モ細々御亭ニテ實如上
人御相伴ニ五三日アヒ候テ被下侍シ事也同遠國ヨリ
上洛ノ大坊主衆モ同前ニ於御亭御相伴ニテ飯ヲ被下

シ事ナリ

一蓮如上人順如上人ノ御時ハ御相伴被申候人多ク候ツル事ニテ諸門跡ノ出世坊官衆或ハ諸大夫ノ入道シタルヤウノ人侍ノ入道シタルナト御入候ツル實如上人ノ御時モ禪衣ヲ著シタル人々十人モ不斷御相伴有シ事ニテ候キ

一御代々遠夜日中ハ御影前ノ脅二間ノ押板ノ向フニ候ヘハ御住持御一人勤ハ御役ニ候一家衆五人十人押合次ニ付申候北ノ方ニ付申人ハカリ押板ノカタヘ少シ向申候聖人ヲ後へ成難クテ如此候實如上人モ北ノ方御上ニ御付候テ御オカミ候時先向ノ御影ヲ御オカミ

次ニ聖人ノ御方ヲ卒度御オカミ候キ是モ蓮如上人ノ御仕付ニテソ御入候覽ト申事候同時南方ニ付候衆脇へ向候キ當時如北座入候事昔ハ覺不申候當時御聲ト、カス候トテ各へ巡讚ニサセテ候疊マハリ敷ニアラス候ヘハ次第如何御入候ヘキ御兩所計サセラレテモ尤候ヘキニテ候ト見ヘ申候

一勸ナト過候テ脇ノ座へ一家衆出候時縁ニ疊シカレ候所有事イカ、ノヨシ光應寺蓮淳ナト常申候テ上へ各上リ居候キ縁ノ座ハ坊主衆ノ座候間不可有候ヨシ宿老衆被申候キ

一蓮如上人御時ハ御内衆家ヲ建候ヲ被御覽候テハ大小

ニ隨テ太儀ヲシタルヨナト被仰代物ヲ餘ノ傍輩ニカクサレテ十貫廿貫馬ノ手綱ノヤウニ代物ツ、マセラレ入夜被下候由難有御事候キ

一同蓮如上人御時兄弟衆同一家衆供御又ハ一獻進上申候時後ハ入日ノホトラヒヲ御分別太儀ヲシタルヨシ被仰千匹可入候又ハ二千匹可入ヨト仰事後夜ニ入候テ代物ヲツ、マセラレ被下候間各爲冥加ノ間代ヲ被下由ヲ斟酌申候ヘハ親ケレハコソヤレヤルモノヲハタフトキト思ヒテ取ヘキ也ト何ト斟酌申候ヲモ取候ヘト被仰下サレタルヲノ物語候ツル事候然ハ實如上人前住ノ御時モ蓮如上人ノサセラレタルヤウ

ニハ候ハネトモソノコ、ロハセノコトク候キ

一實如上人前住ノ御時ハ過分ニ物ヲ進上候ヘハナニ物ソ必ス被遣事候キ心ニ入申候ト思召サレ何ソ被遣必ソノ志ヲ御感ノ心ノミニテ候キ

一上洛ノ一家衆年頭ノ御禮皆心々ニ申サレ候過分ノ儀如何ト沙汰ニ及候シ時各以談合大納言殿ヘ申候所可有御定ノ由ニ候以大納言殿御筆ニテ日記出サレ候今ニ所持ノ方可有之候過分ニ被申事不可然事ノ由ニ候テ被定候御住持百匹大納言殿圓如五十匹武者小路殿照如五十匹此兩所ヘ三十四ト被仰候シヲソレハ餘ニ左道ノ由申候テ如此候キ丹後法橋蓮應卅匹左衛門太

夫賴慶廿匹ソノホカハ可爲停止ノ由御定候キ又御明
ノ儀ハ志次第タルヘシサレトモ五十匹卅匹百匹ノホ
カハ无用ト被定侍リキ

(66)

一同一家衆子共得度ノ時御禮ノ儀同時過分ノ儀不可然
トノ義也是モ被定テ大納言殿御手ニテアソハシ被出
候各所持候キ我等モ持候キ御明百匹御住持様百匹御
堂衆五十匹頭ヲ剃人何ソツカハシ候キ是モ日記ニ武
ナキコト也
者小路殿五十匹大納言殿五十匹丹後法橋世匹左衛門
太夫廿匹是ハ无用ノ由被仰候間強テ申入候ヘトモ努
々无益ト堅ク被仰候キ兩條共ニ永正十年也

一實如上人ノ御時ニ客人御入候ニ四日十五日ニハ精進

ニテ御入候ツル子細ハ四日ハ青蓮院尊應ノ御命日師
匠ノ御心ネニテ候アヒタ公家衆ソノホカノ人ニハ精
進ニテ御入候キ公家衆ヘハ魚物ノ事ニテ人ニヨリ精
進人モ御入候キ十五日ハ日野殿唯稱院殿ノ命日ナレ
ハ外人ニハ精進ニテ候キ然ニ順如上人ノ御時十五日
ニモ精進ニテ御入候是ハ順如上人實如上人共ニ御兩
所御養父ニテ候山科ノ御坊ニ兩御代ノ養父トテ唯稱
院殿御影ニ幅御入候キ二幅ナカラ立エホシ式裝ノ出
立ノ御影候キ

(67)

一山科殿ニテハ慈鎮和尚御壽像御入候キ親鸞聖人御祕
像讚モ慈鎮和尚ノ御自讚ニテ一段結構ノ表補繪ニテ

御入候キ是モ御師匠トテ御申アリタルトナリ御命日ハ九月廿五日ナレハ法然上人ト同日ノ御事ニテ候ヘハ不及御精進ノ沙汰ニ候トテ實如上人御時ノ事

一遠國ヨリ上洛ノ大坊主衆上洛ノ時ハ必御對面ノ時モ肴雜煮ナトニテ龜相ニハ御座ナク候末々ノ衆遠國ヨリ上洛ノ御門徒衆ニモ雜煮ノヤウナル物ヨキ御サカナモ蓮如上人ノ御時ヨリサセラレ聊モ惡シクコシラヘ候テハ可爲曲言ノ由度々被仰タルトテ此儀實如上人御物語候ツルハ前住蓮如上人ノ御時雜煮ヲ被仰付タルヲ被召寄マツキコシメシタルニイカ、鹽ヲカラク味ヒワロクコシラヘタルヲタカシタルト御尋候テ

ソノ中居衆御折檻候ツル遠國ヨリハル／＼ト上ラレ候聖人ノ御門徒ノ人ニ加様ニワロク肴ヲコシラヘタル曲言ノ由被仰出御折檻ノ由ヲ實如上人御物語候テ前住様ハ加様ニ御門徒衆ヲ大切ニ思召候ヘツレ共ワレハ左様ニモ不謂候不信ノ至トアサマシク候ト實如上人御亭ニテ御物語候シヲ承候御内衆承ラレ候シ事ニテ候

一遠國ヨリ上洛候大坊主衆ハ不及申長男ノ様俗人ニモ在京中ニ御亭ニテ御相伴ニテ魚物ノメシ被下タル事ニテ候

一野村殿ニテハ御堂ノ勤ハテ時分ニ障子ハツサレテサ

ウトウシタル事モナク候ハテ時分ニ男女共ニ末座ノ
 衆立サワクカ様ノ事候ツルサノミ今ノ様ニハナク候
 一廿七日コトノ御拂除御佛事前ノ拂除ニハ丹州兄弟又
 慶聞坊ト駿河蓮秀ナト被出候ツル當時ハ下間衆ミエ
 ラレ候ハヌ事ハ如何候ヤ

一實如上人ノ御時下間駿河入道ヲメシテ御使トシテ御
 堂衆へ被仰遣候シハ勤後ニハ御文ヨミテモ讚嘆スヘ
 シマツ讚嘆シテモ御文ヨムヘシ讚嘆ノ中ニモ御文ヨ
 ムヘシ御文ヨマスシテ讚嘆ハカリモスヘシ一樣ニハ
 スヘカラス候ト被仰出候テ毎朝様體カハリ候ツルソ
 ノ比ハ慶聞坊法敬坊勝尊祐信端ノ坊ナトマテ候シ時

ノ事也

一實如上人被仰候シハ阿彌陀堂へ鐘ヨリ前ニ御マイリ
 候テ暫ク御座候シ時御法談候テ前住蓮如上人ハ本堂
 へ加様ニ鐘ヨリ前ニ御マイリ候テ法談共仰候テ堂衆
 ノ不法ナルハ淺間敷ソ如來聖人ニミヤツカヘナカラ
 冥加ヲ思ハス不信ナル第一ノ曲言ノ由細々仰事候シ
 カ共今ハ御身モ不信ナルニヨリテ仰事モナク細々勤
 ノフシヲモ稽古サセラレ候シカトモ御身ハ御无器用
 ニヨリ被仰聞儀モナキ由御物語候テ後シハシ候テ鐘
 ツカスヘキ由仰候事度々承申候也
 一本堂ニテ鐘ヨリ前ニ御マイリノ時鐘ノハツルト同シ

トノ御事ニテ御マハリ三ト御申ニテ候キ殊ノ外御斟酌ニテ前住蓮如上人ノ御代ヨリ此分ニテ候中々カタク被仰候シヲ強再三以上野方御申ニテ三ニナリ申候キ殊ノホカニ无用ノ事ニテ候由被仰候キノ時有合御申旨御返事ノ様具ニ承候キ冥加ヲ深ク被思召候

一霜月朔日二日比ヨリハ入夜テ一家衆内陳衆御堂衆毎夜勤稽古御入候事自前々有事ニ候近年ハ一向无其沙汰候如何候哉廿八日式アヒノ讚念佛ノ稽古ハ廿五六日ノ間ニ入夜有之事ニ候

一冥加ノ方專可存ノ由前住蓮如上人仰候トテ實如上人モ仰事候キ深ク時々刻々萬ノ儀ニ付テ深ク可存子細

兄弟中存候ハ、今ヲサナシ共成人候ハ、堅固可申聞ノ由被仰置候由皆々モ被申事ニ候キ

一各讚嘆被申候儀ニ付諸淨土宗法文モ當宗モ面白様事多候へ共内證各別ノ儀ニ候佗力ト被勸候へトモ諸淨土宗ハ皆自力ニ候大ニ各別ノ事ニテ候ニ佗流ノ勸化相似タルヤウニ候事又マキレタル段分別候テ法文讚嘆可申候ヤノ事蓮如上人常ノ仰ヲ聞細々我人可申合事候歟

一蓮如上人ハ如何ナル極寒ニモ御手水ニ水ヲ御ツカヒ候湯ヲマイラセ候モ无冥加由被仰候キアマリ極寒ノ折節湯ヲ少シ御手水ノ中へ各ナカシ候テイレ候タル

由ニ候

一實如上人ハ御往生ノ前ノ年夏比癩病ノ御煩候間秋末
比ヨリ御足冷候テハ不可然ノ由申テ勤行ニ御マイリ
ノ時單皮ヲメナルヘキ由各申テ御入候ヘトモ冥加ヲ
思召候テ終ニ御堂ヘハメシ候ハス候キ定テ蓮如上人
モ左様ニソ御入候ツラン

一蓮如上人ハ夜メシタル物ハキタナキトテイカナル極
寒ニモ佛前ヘ御マイリ候時ニハ御ハタヨリ別ノ物メ
シ候テ御マイリ候各サムキ時ニハカナシカリ候テ夜
中ヨリコタツノ上ニメシ物ヲキアタメ候テマイ
ラセ候ヘトモ召シ候時ハウチハラヒ候テメシタルヨ

(75)

シニテ候冥加ヲ深ク被思召候テ如此候ツル由各宿老
衆物語候是ハ中々不可成事ニ候

一野村殿ニテハ女中衆御座候方ニハ持佛堂ノ様成事御
入ナク候霜月廿八日前ニモ廿八日ノ御志トシテモ女
中方ニ且以下々ノ衆マテモ御佛事取越テ被申候人タ
レモ无御入候キ當時ハ女中方ニ其御志候様ニ見エ申
候キアリカタキ御事ニテ候但シ如何

一蓮如上人ノ御時ハ法義ニ心ヲカケラレ候一家衆坊主
衆ナトヲハ細細御前ヘメサレ別シテ御目ヲカケラレ
候事ニテ候キ多ク聖教ナトマテアソハシ被下タル事
候キ實如上人ノ御時モ同前ノ事ニ候キ

(76)

一親ニ不孝ノ人ハ一段ト曲言ノ由被仰折々御折檻ノ事
ニ候三親ニ孝行ナル人ヲハ一段ト御崇敬ノ事ニテ候
蓮如上人以來如此候

一波佐谷松岡寺蓮綱山田光教寺蓮誓若松本泉寺蓮悟三
人往生ノ時影ヲ申入候何モ壽像ニ御免候シ殊ニ蓮綱
ト蓮誓ハ現存ノ時於野村殿カ、セラレタル事候キ
一順如上人願成就院殿御時御病氣ニヨリテ不斷御酒ハ
カリニテ御煩候シ間本尊開山ヲ御堂衆ニカ、セラレ
御判ハカリアソハシタルニテ御座候間實如上人ノ御
時ミナアソハシ直サレ候聊爾ナルトテアソハシ被直
候然レハ本尊御影裏書ヲ末寺ノ人書タルハ有ヘカラ

ス候

野村殿ニテハ報恩講七日ノ間廿一日ノ晩景ヨリ縁廊
下御堂ノ縁御堂へ參候道スカラコトククイナハキ
ヲシカレ候事也御堂ノ大庭ニハイナハキヲ繩ニテツ
ナキテ總ノ庭ニシカレ候雨フリ候ヘハマキテ内ヘト
ラレタル事ニテ候聽聞衆庭ニ各イナハキノ上ニ堪忍
アリカタキ事也ト毎年各被申事ニテ候

一野村殿實如上人御座候時江州山家へ將軍義植御沒落
ノ時都へ御歸洛ノ時伊勢貞宗江州へ御迎ニマイリ候
時山科葬所通リ候トテ御坊へ被申入候事ハ此葬所ヲ
御所御通候ヘキ由申テ葬所如何候間タ无常堂ノ跡前

ソトツ、マセラレハ可然由貞宗被申入候シカハ安キ
 事報恩講大庭ニシカル、イナハキヲモタセウチカケ
 ツ、マセラレ即時ニ一圓ニ堂モミエヌホトニツ
 マセラレ候ヘハ勢州キモヲツフシコノ大ナル堂ツ
 マレタル事ハ何方ニモ有ヘカラストテ貞宗感シ候
 ケルト其比ノ沙汰ニテ候ツル事ニ候
 一 正月十五日ノ間モ山科殿ニテ御堂縁南殿北殿道スカ
 ラ皆イナハキヲツナキシカレタル事ニテ候當時モ覺
 エタル人モ御入候ヘク候
 一 報恩講前ニハ諸國一家衆堪忍モヨク候ホトノ人同シ
 ク坊主分又御門徒衆長男ノ類ヒ白御小袖ノ爲ニトテ

上品ノ絹ヲ上セラレ候今ハ御入候マシキ歟加州三箇
 寺以下ノ人々御素絹ノ爲ニトテ絹ヲ上セマイラセ候
 御講中ニ内陳衆上洛候シニハ白小袖一ツハ被下タル
 事ト各物語候キ (79)

一 報恩講前近ク成テ御精進入ト號シテ上下各魚物御汁
 菜ナトヲ上ケ脅々ニモ其儀候ヨシ申人侍シ愚老ナト
 ハ承モ及ハス候御佛事精進近ク候テ魚物各用ラレ候
 風聞ハ不可然祖師ノ仰ニモナシ惠心院ノ御掟等ニモ
 相違トテ不可然候由各仰ラレサフ事ハ承候シ不
 可然沙汰ニ候歟ノ御事

一一 七日御佛事ノ以後又二七日三七日モ精進ノ儀候方

へ長々精進候トテ魚物ノモテナシナト奉ニ音信候事
モ候キ精進ホトキトテ魚物ノ汁菜ニテ一家衆十二月
朔日以後マテ伺公候ツル一家衆御前ニテ遠國坊主衆
五人三人御亭ニテ被下タルト承及候野村殿ニテノ事
也

一 女中方ニハ小殿原一兩人イニシへ御入候シソレモ年
タケ候へハ御亭へイテラレシ也公武ノ家々ニモ女中
方ニハ十五歳マテハ女中方ニ奉公候十六歳ヨリ侍方
へ出サレ女中方へハ影サシモナキ事ニテ候畠山方ニ
モ如此候由申候ソノホカ諸家ニモ如此方々候由ニ候
一 一家衆不斷ハ大勢マイリ候事モ候ハネ共此以前ニ往

年ハ依錯亂一所ニアツマリ申候御佛事ナトニハ又各
マイリツトフ事候へハ有所ヲ被仰付候テアルヤウニ
御入候間各畏入可存候野村殿ニテノ程御入候テ能御
入候ハン六間ノ座敷ニ小者方間ノ有所二間ニテ大小
便所二所手水桶二所ニ候テヨク御入候ソレサへ大勢
マイリツトヒ候時ハセハクテ難儀ニ御入候ツル事ニ
候

一 野村殿ニテハ毎月風呂立申候ニ風呂ノ入口ハ二ツ御
入候住持ノ御出入ノ口ハ脅ニ御入候總テ出入ノ口ハ
如常是モ昔ハ只一ツニテ御入候ヲ五山ナトノ長老ノ
出入ノ口ハワキニ別ニ候ヲキコシメシ圓如上人御申

候テ如此候一家衆モ禪衣ノ人々御内衆同前ニ入申一家衆ハ召仕候者一人ツ、ツレテ入申候垢カク者候ハテハトテ如此候古ヨリ此分廿五日ト廿八日トニ立申候ヘトモアヒタ近ク候段前月ノ廿五日ニ立候ヘハ後月ハ廿八日毎月ニ一度ノ心御客候ヘハ臨時ニ幾度モ立ラレ候キ

一煤拂ハ十二月廿日古ヨリカハラス御入候七時ニ朝勤御入候テ无讚嘆宵ニ佛前ノ道具大概取置當座入候物ハカリヲカレ脇ナル物ハミナトラレテ朝勤モ御入候テ過ト則ス、ハキ候夜明候ハテハホヨリ見エ不申候間夜ノ明ルト同有之一家衆モ各袴ハカリニテ出申候

上壇モイツクモオクヲハキ申候御住持御出候時一家衆上壇ノ左右ニ並居ントス、ヲハ御住持聖人ノ上ヲハカセラレ御歸候ヘハ各上壇ヲハ一家衆御堂衆同前ニ天井ヨリ下ハキ申候ヘトモ一家衆ノ分ハ御堂衆ニ被申付候キ御堂衆坊主衆ノ分ハ自身ノコシラヘハキテ被出候御祝トテ御堂ニテ五時ノ比住持北ノ御局ニテキコシメシ坊主衆御堂衆御相伴ノヤウニタヘラレ候テ白御酒一遍アリト承候一家衆ナトハ御相伴モ不申候間不存候事ニテ候白御酒ニテ候カ
一齋非時ノ時御亭ノ座敷ハムカフハ御住持ノ右方ヲアカリト立ラレテ右ノ座上ニハ波佐谷松岡寺蓮綱左ノ

座上ニハ山田光教寺蓮誓ニテ候是ハ佛法方ノ儀ハ右
 アカリトセラレ候事ニテ候間如此候キ蓮如上人ノ
 一周忌第三年七年等ハ加様ニ慥ニ覺申事ニテ候當時
 ハ近年サモ御入候ハヌハ如何存候世間ノ人マイラレ
 候時左ノ方アカリトセラレ候事勿論ニ候是ハ何事モ
 佛法ノホカノ作法世上ノ事ハ如此ニ候間左座ヲ座上
 蓮如上人ノ御時モ實如上人ノ御時モ如此ニ候教行
 信證六卷目ニ釋迦如來誕生老子誕生ヲ被引世間佛法
 方可用法ヲ遊シ被置候ニヨリタルト承及候事ニ候近
 年无其儀候如何
 一 塔取婚ノ事蓮如上人被仰タルトテ物語候ハ凡僧ナレ

共先オモテハ出家也佛法ヲ面トシテ凡僧方ヲ面ニス
 ヘカラス如何ニモ 一 塔取娶ノ方本意トスヘカラス
 ト仰事アリシト也

一 永正十三年夏比實如上人或人齋ノ上ニ一家衆香奠取
 申タル事是次第相違ノ事候テ御意ニアラサル事アリ
 シカハソノ後ヨリ齋ノ上ニ志アリトモ齋ノ上ニ一家
 衆ノヲハ不可引ノ由御停止ノ事ニテ候キ尤ノ御事ニ
 テ候由ニテ各ノ齋過テ座敷々々へ被歸候所ニテ布施
 ヲハ被出候キ次第相違ケチメミセラレシトナリ尤ナ
 ル被仰事ノ沙汰ニテ候キソノ後此仰モ又ヤフラレテ
 齋ノ上菓子ノアカラヌニ被引候ハ近年ノ事ニテ候キ

如前アリテ可然候

一 蓮如上人ノ御時ハ毎夜座敷中ノ油火燈心ヲ二筋ナラ
 テハカキタテラレスアカリノ御用ノ時ハイクスチモ
 カキタテラルナカキモノハ三筋カキタテラル、ソト
 仰候テ二筋ヨリ多クハタテラレス佛前ノモ當時ノヤ
 ウニフトクハ御入ナク候ツルトミナ、申候冥加ヲ
 オホシメサレタルニヨリタル事也佛前ニハアカク御
 入候ハテハトテ三十スチ四十スチ立ラレ候間アカク
 御入候ソノ煙ノフスホリニヨリ上壇ハヤク黒クナル
 事ニテ候

一 二月十五日ハ佛入滅ノ日ニテ候諸宗ニ法事アル事ニ

テ候當流ニハカリ何事モ御入候ヌ事諸宗難シ申事ニ
 テ候蓮如上人ノ御時ハ如何御入候事ニ候ヤ宿老衆ニ
 尋申ヘキ事ニテ候ヲ油斷ニテ候何ト案シ申候ヘ共法
 事ノナキハ佗宗難シ申事ニテ候殊更遊事ナト不可然
 候御事ニテ候朝ノ魚物イカ、ニテ候セメテ可爲精進
 事ニ候

一 當流ノ朝暮ノ勤行念佛ニ和讃六首加ヘテ御申候事ハ
 近代ノ事ニテ候昔モ加様ニハ御申アリツル事アリケ
 ニ候ヘ共朝暮ニハナク候ツルトキコエ申候存如上人
 御代マテ六時禮讃ニテ候ツルトノ事ニテ候越中ノ國
 瑞泉寺ハ練如上人ノ御建立ニテ彼寺ニ暫ク御座候ツ

ルト申傳候シノ後住持ナクテ御留守ノ御堂衆ハカリ
 三四人侍リ候トナリ文明ノ初比マテ朝暮ノ勤行ニハ
 六時禮讚ヲ申テ侍シナリ然ニ蓮如上人越前ノ吉崎へ
 御下向候テハ念佛ニ六首ノ御沙汰候シテ承候テヨリ
 以來六時禮讚ヲハヤメ當時ノ六首和讚ヲ致稽古瑞泉
 寺ノ御堂衆モ申シ侍シ事也然ハ蓮如上人ノ御代ヨリ
 六首ノ和讚勤ニナリ申タル事候也實如上人ノ御時四
 遍カヘシト申勤今ノ六遍カヘシヨリ二遍ミシカクハ
 カセ御入候ツルト申候慶聞坊へ覺エタルカト御尋候
 テ未々御門徒衆ニ御申サセラレ度ト度々ノ仰ニテ候
 へトモ慶聞坊ヲスレ申タルトノ御返事申サレテ四遍

カヘシノ沙汰モナクテ果申候キ

一昔ハ人ノ志ニ御齋可申ノ由被申候ニ一家衆ヘソノ御
 相伴ニマイリ候へト案内ヲハ丹州蓮慈來儀モシ指合
 事候へハ子息カ然ラサレハ傍輩衆ヲトナシキ衆來儀
 候テ案内候キ慥ニ承候テ可然候ツル今此コロハ一向
 ニ外ノ衆案内候間一定參候へトノ儀候ヤモタシカナ
 ラヌヤウニ御入候各々モ一定ヲ不存候ヤウニ候トテ
 迷惑カリテ候コレハ御推量モ候へ迷惑心マヨヒハカ
 リニテ候并毎月ノ御齋ニモ御殿原衆ナトノ慥ニ案内
 候へハ參ヨク候

一實如上人ノ御時女房衆御折檻カフムリタル人御ツヒ

コト被申候ニモ女房衆へ付テ被申候事ナシ一切人託言男女共ニ總シテ男衆へ付テ奏者へ申サレタリ且以女房衆方ニハ取次モナシ每事女房衆方ヨリ被申候事ナシ大法ノ様ニ各存知候コト也

一和讃ノ讚ヲ被出候ニ讚一行ヲ二息或ハ三息ニ被出候事ナシ一行ノ分一息ナリシ當時ハ二息ナトニ被申儀承及サル事

一實如上人御往生ノ初條々被仰置候ニ第一諸國ノ武士ヲ敵ニセラル、儀不可然何モ國守護等ニモ入魂セラレ和與アリテ諸國ノ佛法ヲ開山聖人御本意ノ如ク立ラレヘク候ノ由被仰三箇條守ト可申付候由御遺言ニ

テ一家中ソノホカ坊主衆御門徒中へ御遺言候間御往生ノ年諸國方々へ被申調事

一同時一箇條ニ所領方ノ儀可停止ノ由被仰定タル事候アヒタ御内方一家衆中召仕候者ナトニ所領方儀不可預候段申合候

一今一箇條ハ王法ヲ守佛法方如聖人御時ト被仰定タル事此三箇條ヲ近年ミナ破候事无勿體如先規開山聖人ノ仰ノコトク可有候由ノ事

一廿八日以下ノ祖師ノ御命日ニ白小袖ノ下モエリヲ白ク著シ候事昔ハナキ事ニテ候違如上人實如上人ノ御時ハ白小袖ノ下ニハ色ナル何ヲモ著シ紋ノアルヲサ

へ一家衆モ坊主衆モキラレ候ツル事ニテ候近代結構
ニハタヨリ白ク著シ候事各迷惑カリノ事ニテ候如何
御入候ハンヤ此四十年以來ノ事ニ候

(90)

一御住持様勤行ニ御出仕ノ時御堂へ御供衆ノ多キハ不
可然ノ由實如上人ノ仰事候御堂へマイルナラハ表へ
マイリ本尊聖人ヲオカミ候へキニ御供トテ大勢御堂
ノウシロニマイルハ不可然トテヲヒ返サセラレタル
事ニテ候殊ニ御佛事ノ間ニハ面へ各被參候へト被仰
付候又一家衆モ勤ニ立申候ニモ御供衆オホキハ迷惑
ニテ候

一蓮如上人御内衆へ度々堅ク被仰付候事ハ可掛御目ノ

由令案内候ツル人ヲマタセ申事ヲハ曲言ト細々被仰
候ツル由各物語候世上ノ人モ同前ニ候一切ノ事モカ
ロト可有御見參ノ由常々御意候ツル由各被申候
キ尤ノ御事ニ候

(91)

一邪法ヲ申仁體ヲ曲言ハ勿論ニ候へトモ生害サセラレ
候ハ不可然トテ蓮如上人ノ御時諸國ニ候へ共御成敗
ノコトハナキ事ニテ候マツ法然聖人親鸞聖人ノ御時
モアマタ御入候ツレ共何レカ御成敗候ツルツ蓮如上
人アソハシヲカレタル事モ可有之候イマタ存知ノ人
モ候へク候邪法ヲ申ハ聊後生ヲ大事ニ思フ心トテハ
ナキ事ニテ候へ共邪義ノ人ニ近付候テワロク成行事

ニ候ヲワロシトテ生害サセラレ候事不可然候堅ク命折檻置候ヘハ心中ヲヒルカヘシ正法ニ歸スル事ニテ候ヲホカト打殺事大ニ不可然ト蓮如上人ハアソハシヲカレ候又御在世ノ比ハ加様ニ被仰付タル事ニテ候ヲタレ被申入候ヤ證如上人前住ノ御時ヨリ當御代ニ至マテ生害サセラレ候事无勿體事ニ候也

一後生ノ御免ト申事近代被申入候イツレハ經論ニ御入候ヤ聖教ニモ御入候歟未承及ノ由各申事ニ候是モ實如上人ノ御時マテハ无其沙汰事ニテ候近年天文年中以來イテキ申コトニ候死去シタル人ノ上ニモ被申入候アル事ニテ候カイツレノ祖師ノ仰ニテ候ヤ各不審

ニ候

一蓮如上人ノ御時ニハ第一冥加ノ方ヲ本ト被仰事ニテ候由各宿老衆申サレ候キ何事ニモカタク冥加ヲ存スヘキニテ候一向近年ハソノ沙汰御坊中ニテ申出サレ候人モナク候毎日毎夜仰出サレタル事ニテ候ニ今ハカツツメニモ出言候人モナク候加様ニハイカ御入候ヘキ事ニテ候ヤ
一何ヨリモ親ニ不孝ナル人ハ蓮如上人第一キラヒニテ候又ハ不信ノ人ニハ蓮如上人ハ御見參アルマシキト明應三四年ノ比ヨリ被仰出タル事ニ候
一蓮如上人ハ御膳ト被申候ヨリハヤ如來聖人ノ御用ニ

テ物ヲクフヘキヨト被思召候テヨリハ御膳マイリハ
 ツルマテ御忘ハテラレタル事ナシト御物語候ツルト
 各宿老衆被申兄弟中へ則加様ニ存候へトオホシメサ
 レテ御物語アリタル事ニテ候由候ツル也聊ノ物ヲキ
 ヌシメシ候時モ如來聖人ノ御用ニテ又クフヘキ歟ト
 思召サレテハ更ニ御忘モナク候ツル事ニテ候ト則兄
 弟中へ被仰聞候ツルハ各如此存セラレヨトノ御意ニ
 テ候ツルト宿老衆物語候ツル事ニ候
 一アタラシキ御衣裳ヲ違如上人ハメシ候テハ御堂へ聖
 人ノ御前へ御マイリ候テメシ物ヲ被引出御用ニテ御
 著候ト御申候體ニテ候ツルト宿老衆物語候是モ兄弟

中各ニ被仰聞候如此存知候へト被思召タル事ニテ候
 トミへ申候ト各物語候シ

右此條々者實如上人之御時城州山科郷野村里御坊
 之時細々令上洛行事以下之但不同雖无正體自然古
 之儀者有御存知度事共侍覽ト書付申候也落字以下
 如何輕之者也愚存分雖有恐一言虛說等書付不申候
 者也乃御局迄進置候條々也以御分別御目一不可有
 佗見儀奉覽者也

實悟八十九歳書之

天正八年三月二日

御局參

山科連署記本

側ニテ承リ傳ヘシ旨ヲ書記申候也

御開山様滿九十歳ニシテ弘長二歳霜月廿八日御入滅
ナサレ候押小路ノ南萬里小路ノ東兩小路ヲ隔テ虎石
ト云大石アリ聚洛ノ御普請秀次關白ノ時ニ引セラレケリ處ノ
名ニヨソヘ角ノ坊ト申セシトナリ御葬禮ハ烏邊野ノ
南延仁寺ニテアリ御遺骨ハ烏邊野ノ北大谷ニ納タマ
ヒシトナリ洛中ノ名ニヨソヘ角ノ坊トカヤ申セシト
ナリ是迄ハ御寺號モナシ然ハ御宗旨愈御繁昌國郡ニ
ミツルユヘ遠國近國ノ參詣シカシナカラ御門前市ノ

コトシ天子聞召レ聖人ノ御德行ヲ尋サセラレ勅定ト
 シテ猶吉水ノ北大谷ニ佛閣ヲ被建本願寺ト勅號ヲ被
 成下木像ヲ造ラレ御骨ヲ粉ニシテ御彩色トナサル是
 勅定ナリ文永九年ナリ弘長四年ハ即文永元年トカヤ
 御入滅ヨリ十一年目ナリスナハチ御位牌ヲ建ラレ勅
 願寺ト宣旨アリ龜山院元八十九代文應ノ御在位ナリ即
 御廟ヲ掘渡サレ候ナリ然ルニ聖人御眷息七人在ス御
 嫡男印信次男三男四女五男六女七女ナリ御嫡男範意
 通世シテ號ニ
 印信母ハ後法性寺殿攝政兼實公ノ女ニ小黒女房母ハ
 兵部大輔三善爲教ノ女三慈信坊善鸞ト云宮内卿ノ母ハ
 ハ同上如信上人ハ慈信ノ御子也慈信ヲ善永寺ト云四
 明信粟津ノ信蓮ト云母同上五道性從五位下出家シテ
 有房號益方大夫入道ト云母同上六高野女房母同上七覺
 信尼左衛門督ノ局ト云廣綱ノ室御留守職ニマヒテ

(2)

ヲレシハ御然トモ七番目ノイヤ女様御法流ニカナヒ
 タマフユヘナリトキコエ侍ルナリイヤ女様後ニハ覺
 信尼公ト申セシトナリ覺信ノ御子歷々在スト申セト
 モソレヘモ御代參セラレスシテ御兄善永寺慈信御坊
 ノ御子如信様へ參セラレ候シコノ如信上人ハ奥州大
 網ノ御本寺ヲ建テラレテ御在寺ナリ即奥ノ坊ト申ス
 トナリ毎年霜月報恩講ニハ京東山殿へ御上洛ナサレ
 一七日念佛勤行ナサレ候又如信上人奥州ニ御座候コ
 トハ六角堂ノ觀音ノ御夢想ニヨリ聖人東國御在國ユ
 へ御門弟御繁昌ノ儀ニ候イヨク其遠國ノ面々ノ佛
 法御相續ノタメ聖人御上下ノ道ヲ慕ヒタマヒテ御行

(3)

化トキユエ侍ルナリ往古ハ關東廿四輩ニカキラス御
壽像アマタ御座候ヘトモ別シテ御渴仰ハ御骨ヲモテ
彩色申サレ候御木像ナリ即御姿ヲ拜シ申候ヘハ御骨
ヲ拜シ聖人根本ノ御姿ヲ眼前ニ拜シ奉ルコト御在世
ニ逢奉ルト渴仰忝計リナリ總テ明師ハ何レモ如是ノ
由ニ候然ルニ如信上人御子三人在ス然レトモ御代參
セラレスシテ覺信尼ノ御孫覺如上人へ御代ヲ參セラ
レ候然レハ覺信尼ノ御タメニハ如信上人ハヲヒニテ
在ス如信上人ノ御タメニハ覺信房ノ御孫ハイトコヲ
ヒニテ在ス本ハ南都一乘院ノ御門侶法相宗ニテ在ス
十八歳ノ時東山殿ニテ如信上人報恩講御執行ノ節覺

(4)

如上人御參詣ナサレスミヤカニ御一流ニ歸シタマヒ
師弟ノ御契約ナサレ即御同意ニテ奥州へ御下向ノ刻
遠江國佐世ノ中山ニテ覺如上人風病ヲ煩ハセラル時
ニ善鸞上人行アヒタマヒ候テ御封ヲ覺如上人へ參セ
ラレ候ヘハキコシメサレ候様ニモテナサレ捨サセラ
レケルトナン次ニ存覺上人ト申スハ世間ニ聞エ侍ル
内典外典トモニワタリタマヒシ智者ナリ其頃東福寺
虎關ト御中能互ニ御足ヲサ、レ御晝寐候ヒケルニ雙
方一切經藏ニ御足ヲサ、レ候ト御夢ニ見タマヒテ互
ニオトロカレ禮拜アリシトナリ如是ノ由ノ人ニ候ヒ
シ間諸寺ノ式文ヲナサレ謠モ柏崎當麻實盛等七番造

(5)

セラレ候トナリ澁谷佛光寺了源望ニヨリテ浄土真要
 鈔顯名鈔持名鈔破邪顯正鈔等造セラレ候伊勢ノ高田
 ニテモ七卷書トヤランコレハ御開山様御傳記ノ由ニ
 候然ルニ覺如上人ト法門ノ義理ユヘ御中違トナリタ
 マヘリ備後光照寺ニテモ法華問答決智鈔正源名義鈔
 等遊サレ候トナリサテ東國西國御門弟ヲ頼マレ向後
 御家督ノ望ナキヨシ御懇望ニヨリテ御中ヲナヲラセ
 ラレ候佛法王法比類ナキ御智者ニテ候ヘトモ御代參
 セラレス候ヒテ御次男從覺上人へ參セラレ候ニ二年
 從覺上人御住持ナサレ御子善如上人へ御ユツリナサ
 レ候其後存覺上人_{ラセ}大谷殿ノ西北一町ハカリノキ今小

路ト云處ニ常樂寺トイフ寺ヲ建ラレ御座候報恩講式
 四段目ノ嘆徳文ハ存覺上人造セラレ候ヲ毎月廿八日
 コトニ眞影ノ御前ニヲヒテ御代々遊ハサレ候又六要
 鈔等存覺上人御作ノ分御代々用ヒサセラレ候ヘトモ
 御代ヲ不被_{ラセ}參候ハフカキ御心マシマス御コトタルヘ
 ク候歟
 綽如上人ト申ハ廣學ニマシマス將軍家御持僧ニ頼マ
 レ思召ス又天子ヨリ別號ヲ參セラレ候テ周圍上人ト
 申セシトナリ又此御代御壽牌ヲ建ラレ候由コレ後伏
 見院ノ御在位也然レハ巧如上人ノ御舍弟巧覺ト申セ
 シハ存覺上人ノ御スチ絶タマフユヘ常樂寺殿ヲ御相

續トナリ正月四日本願寺殿御家老蓮位坊ノスチ下間
 へ御出候事往古ヨリ御嘉例タリソレへ御座候先ニ本
 願寺殿ノ御住持常樂寺殿へ年頭ノ御禮ニ御出候ヲ常
 樂寺殿御内淺田ト申ス青侍罷出テ本願寺殿ノ御樽ヲ
 披露申候事存覺上人已來實如上人ノ御代マテノ御流
 例タリトナリ此段ハ今トテモ御隔意ナキ事ニ候トテ
 證如上人ヨリ何モ同前ノ御一門ノ體ナリ蓮如上人ノ
 御母儀蓮如上人ヲ誕生候テ七歳ノ内ニ何方へ御座候
 トモ見エサセラレス候間方々御尋候へハ賀茂ノ鳥居
 ニ御ウフ衣掛リ候テ御座候トモ申シ又ハ石山ノ觀音
 ノ戸帳ニカカリタルトモ申シ候カ御身ノ仰ニハ我ハ

(8)

備前尾道ノ者ナルヨシ仰ラレ候へハ大略石山ノ戸帳
 ト申スコト實ニテ候ヤカノ石山ノ本尊ト備後尾道淨
 土寺ノ本尊ト同一體ニテ十一面觀音トカヤ申候ツネ
 ニ蓮如上人此段御意ナサレ候テ備後衆參詣ニハ尾道
 ノ事ヲ懇ニ御尋ナサレ候テ御愛^{ナツカシク}褻御氣色ニテ候由ニ
 候蓮如上人御眷屬廿七人御座候
 一存如上人ハ御内衆五人召使レ候蓮如上人ハ一人モ使
 カネラレ候存如上人御小者^{云竹者也}ヲ時々御雇ヒ召使
 レ候一年ニ鳥目五十疋トラスヘキノ使レヨト仰ラレ
 候へトモ一年ニ五十疋ヲ三十疋トモ御出シカネラレ
 候漸々十疋ホトツカハサレ候ト承リ候サテ〳〵召物

(9)

ニハ紙子ヲメサレ候絹ノ類トテハコレナク候白御小袖ニハコフクメンヒトツモタセラレ候其時ノ御子達ハミナノ里養ヒニ御入候御傍ニ御座候ハ願成就院殿ハカリニテ御座候ソノホカ蓮乗ハ南禪寺ノ喝食北林房ハ化界院若松殿ハ丹後へ御下シ候イハノ人ニタレカ是程ニ悲キ人候ヤ

(10)

一金森ノ道西ト申セシ人後ニハ善從ト申シ大谷殿へ参ラレ候トキ存如上人ノ御前ニ伺公候ヲカケヨリ蓮如上人御招候テ召シヨセラレ凡夫ノホトケニナルコトヲ御懇ニ御物語候道西承リアリカタク存シ年ニ二度三度モ江州金森ニ入参ナリ候テヨリ少々御法義ヒラ

(11)

キ申候有時金森へ御出ノ時オサナキ人々多ククルヒ居候其中ニ一人ノオサナキ人ヲ上人アレハ唯ソト御尋ナサレ候道西私カ甥ニテ候ト申上ラレ候へハ利根ソウナル者ニテ候我ニクレヨト仰ラレ候へハ難有存候トテ臆テ進上申サレ候ソレヨリ今ノオサナキヒトヲ召ツレラレ大谷殿へ御出アリテ召遣レ候教聞房コレナリ其時ハ御膳一日ニ一度マイリ候マタ日ニ一向キコシメシ候モノナカリツル日モ御入候教聞房京へ出テラレ油ナトスコシツ、調法申サレ候油一向ナキ時ハ黒木ヲ召テ御タキ候テ御聖教ヲ御覽ナサレ候マタ月夜ナトニモ聖教アソハシ候其節教行信證六軸六

要鈔表紙ノヤレ候ホト御覽シ候テ其後御文ヲ御作り
ナサレ候コレ千ノモノヲ百ニエリ百ノモノヲ十ニエ
リ十ノモノヲ一ニエリスクリテ凡夫直入ノ金言ヲイ
カナルモノモ聞易クヤカテ心得候ヤウニアソハシ候
コレ用カ中ノ用ニテ候カヤウニ金森へ御出アリテ佛
法ノ一理仰セタテラレ御法義ヒロマリ候

(12)

一佛法ヒロマリ申スニツイテ山ヨリ法敵出來リソノト
キ御開山様御影大津へ御座候其後北國へ御下向ナサ
レ候テ越前吉崎殿御建立候テヨリ彌々御法流盛リニ
ナリ諸國渴仰申シ候テ參集申サレ候其後安藝ノ法眼
カ悪行ニヨリ吉崎御退キ御上洛アリテ河州出口殿へ

(13)

御出候其後山科殿御建立候蓮如上人常ニ仰ラレ候ハ
是非トモ聖人ノ佛法ヲ申シタテント思召シ候コト十
五ノ年ヨリカクノコトク御念カ一筋ニテ今ハ心易ク
各々佛法ヲ聽聞ノコトコノ法師カワサヨト仰ラレ候
ワレ一人冥加ニカナフヨリミナ／＼安穩ニ居ルソト
仰ラレイカホトノ御苦勞アリテカヤウニ御一宗ヲハ
仰セタテラレ候コトニテ候足ヒシキテ寒クモナク冷
クモナク聖人ノ御養育ニテ利運ニ御文ヲ承リテアル
ヘキヤウニ存シ候ハンコトハ冥加ニツキ候ユヘニテ
候

一蓮如上人御隱居ノ時ハヒトヲ五人召遣レ候コト存如

上人ノ御例格ニテ候昔ノ迷惑ナルコトヲ忘レマシキ
ヨシツネニ仰セ候 (14)

一折々御足ヲ御トリ出シ候テ御ワラチノアトクセ入申
スヲミナノニ御見セ候我ハカヤウニ辛勞シテ佛法
ヲヒロメ門徒ノタメニワレハ身ヒトツ捨テタルソト
仰ラレ候コトニ候

一蓮如上人ハ御口中御煩ノ時ア、ト仰セラレ候ヲミナ
ノ何事ニテ候ト存シ候トコロニ仰ラレ候ハ各々ノ
信ナキコトヲオモヘハ身ヲ切サクヤウニ悲シキト仰
セラレ候アハレノ一人ナリトモ信ヲトリタルトキ
ケハ老ノ皺ヲノヘ候ハント仰セラレ候アリカタキマ

トナリ

一折々ノ御物語ニ御子様ノ内イツレヘ御代ヲ進セラル
ヘキノ由ヲ度々仰ラレ候山科ニテ真宗寺圓光寺ト兩
人御見廻申上ラル所ニテ其後ハ大坂ニテモ仰セラレ
候其時ハ源光寺真宗寺慈光寺善教寺圓光寺承リヲヨ
ヒ候御能ナトモ細々仕候別シテ御狂言ニハ鶯ノ狂言
ナリ御往生ナサレ候ハン一年前ニ我所ヘ御光儀ナサ
セラレ候シ和州飯貝本下間法敬房空専房教聞坊ノコ
ラス御供候源光寺ヘ御光儀アルヘキトコロ教聞房申
上ラレ候ハ別シテアリカタキヨシ申サレ候間御逗留
ト申上ラレ候コレモ慈悲ト仰ラレ静ニ御佛前御覽候

テ金剛山見事コレアリ世間ノ土山サへ面白キ遊山ナ
 リワレラ望次第ニ見セタマフトコロノ七寶ノ山ハナ
 ニホトカアリカタカラントミナノオモフソト仰ラ
 レ涙ヲナカシ申候サテ下間メツラシキ御慰ト申サレ
 サラハトテソレヨリ土居ノ殿ニ御出ナサレ候サイハ
 イ屋敷ノ内二町四角ニテ候内畠ニテ候ヲ水ヲキリカ
 ケテ田植ノ體ヲイタシ御目ニカケ申候御機嫌ヨクテ
 法敬房ニ仰ラル、ハアノ下主ノ身カナスワササへ面
 白キニサソ極樂ノ觀音勢至ノ御慰ハナニホトニ候ト
 オモフソト仰ラレ候末代ノ證據ニ御壽像ヲ御免アラ
 ント直ニ仰ラレ候アリカタクモ涙ト、マラス候サテ

明應七年十月十四日大坂へ召テ其趣ニテ繪師ヲヨヒ
 繪カキ參申候御前ニテカキ申サレ候鏡ヲ御覽アリテ
 色御好ミアリテ兎角影ハチトワカクカキタルカヨシ
 ト仰ラレ候サテ表具イタシ申シ候ヨシ申上候へハ同
 ハ亦其方テアソハサレ候ハンヨシ仰出サレニケ月ノ
 ヒ申候サテアソハサレ候御年八十四歳主カ寺號ハ書
 マシク豊後ニテモスミヤトナラテハイハヌホトニタ
 、法名ハカリト御申シナサレ候御意次第ト申シ上候
 其後ニ河内慈願寺進上申シ候木佛トヲクダサレ候其
 時二人ノ父母ノ法名ト寺號トヲクダサレ候内ワレラ
 カ法名モアソハサレ其上ニハ十字ノ御名號アソハサ

レクタサレ候サテ願成就院殿モヨクスミヤヲ守立ル
ヤウニアソハサレイト御物語ト承リ候其後願成就院
殿御ナリナサレ御影様イヨクアリカタシト仰ラレ
ヨク〜 渴仰イタスヘキヨシヲ仰ラレ御判クタサレ
候御嫡男願成就院殿へ御代參セラレ候御早世候御次
男波佐谷殿蓮綱三男山田殿蓮誓四男若松殿蓮悟コレ
ヘモ御代參セラレスシテ五番目ノ實如上人へ參セラ
レ候實如上人歷々ノ御兄子様コトニ御學匠達コレア
ルニ實如上人御父已ニテ如何ト御座候へハ蓮如上人
キコシメシ御一流ノ義ハ御文ニソハサレ候上ハト
仰セラレ候へハスナハチ實如上人御請ナサレ候シカ

ルニ三人ノ御舎兄實如上人ヲ善知識ト崇タマヒ御隠
居ニテ後生ヲネカヒ念佛御申候事生ノ御満足トテ蓮
如上人ノ如ク實如上人ヲ御崇敬候テ御本寺へ御參ノ
時分小路ノ中ヲモ御歩ナク道ノ片原ヲ御肩ヲスヘテ
歩セタマフヲ有人不審申候ハ上様ハ御兄ニテマシマ
スニ誰ヲ憚セラレ候テサヤウニ候ヤト申シ候へハソ
ノ御返事ニ何カ田舎ノ坊主カ本寺へノホリ實如上人
ヲ輕シメ候へハ冥加ニ盡ルト仰セラレ候ヨシニ候大
坂御堂ノ角ノ石垣ツカセラレシ時實如上人ハ御床机
ニ召シ御兄蓮誓ハヒツシキヲシキ御ヒサヲモ直サス
御座候加州山田ニテモ兩度ノ勤行スキ我屋ニモカヘ

リタマワス後堂ニ立セラレ御本寺様ノ御方ヲ日月星
松風マテモシルヘニナカメタマヒシ御志トナリ

一先師上人蓮如號信御弟子達ノ中空善房ト云シ播州住人後號

法專晝夜不退ニ仰ヲウケシ人數オホカリシ中ニ御物

語ヲ記シ置レシ人アリ數帖侍ルトイヘトモミナ失テ

一帖残りタリシヲ拔書ニシテ侍リシ條々外見ノ爲ニ

アラス自見ノ爲ハカリユメ^く他見アルヘカラス

一延徳元年八月廿八日先師五十七歳御隱居アリテ南殿ト申

スニウツラセタマヒテ實如上人ヘ代ヲ相續セシメタマ

ヒ侍リシナリ其夜各々ニ對シテ仰セコトアリシハ功ナ

リ名トケテ身退クハ天ノ道ナリトイヘルモ古人語思ヒ

出テラレタリサレハハヤ世ヲ遁レテコ、ロヤスシ彌

陀佛三昧タルヘシトソ仰セコトアリシナリ

一人多キ中ニテ聖教ナトヨマンハ大事ナリカナラスソ

シル人アルヘシト用心スヘキナリ

一佛恩ノタメニ名號ヲトナヘテ佛ニ參ラスルハカエモ

ノナリ名號ヲ唱ルハ御助ケアリカタヤ^くト申ス心

ナリ

一本願ノコ、ロハ願力无窮ニマシマセハ罪業深重モオ

モカラストイフ讚ノコ、ロナリ

一凡夫ノ方ヨリ名號ヲ唱ヘ行シテ往生ハセサルナリサ

レハ順ノ文點ハ用ノ文點トイフコトアルナリ南无阿

彌陀佛ハハヤ凡夫ノ往生ヲ成就シタマヘル體ナレハ
兎角ハオラハスタノムハカリナリトコ、ロウヘキナ
リ

一世上ノ人ハ十六日ニ善ヲナスヲヨシトオモヘリコレ
ヲモテ知ヌ必タスカラサルナリ十六日ハ炎魔王ノ縁
日ナレハソノ日善ヲナシテ炎魔王ニ參ラセテカエモ
ノニ苦ヲ優免少シモアルヤウニトオモフナリミナミ
ナ世界ノ人ノコ、ロハ如是トコ、ロウヘシ淺間敷コ
トナリ

一安心トハ彌陀ヲ一向一心ニタノミ申セハヤカテ御タ
スケアルナリサレハコソヤスキコ、ロトハイフナリ

實ニヤスキナリ

一有夜老少男女上下トモニ來集ノ時アラオソロシヤ世
間ニ物クハスシテ寒キ者多クニクヒタキマ、ニクヒ
キタキマ、ニキ候コトハ聖人ノ御恩ナリ此御恩ヲヲ
ロソカニ思ヒ侍リテハ淺間敷コトナリト仰セラレシ
一番匠アリテ作事ナトサセラレシ時聊ナル木ノキレ端
ヲモ取ヲカセラレ侍リシナリカヤウニ大切ニスルハ
コレハ佛物トオモフユヘナリカヤウノコ、ロスナハ
チ冥加ニカナフ心ナリト時々仰コトアリキ

一佛法領解ノ心スナハチ佛願ノ體ニカヘル良ナリ發願
回向ノ心ナリマタ信心ヲウルスカタスナハチ佛恩ヲ

報スルナリ

一一三四

一後生ヲハ彌陀ヲタノミ今生ヲハ諸神ヲタノムヘキヤ
ウニ思フモノアリ淺間敷コトナリマタ内心ニ佛法ヲ
信シ外相ニソノ色ヲミセスカクスヘキヨシヲノタマ
ヘリ

一淨土門ニハ四家流アレトモ本意ハ聖人ノ一流ハカリ
ト見ヘタリ故ニイヨク繁昌アルヘシトソ

一タレクモ聖教一卷讀テモハヤモノシリカホニ思ヘ
リ淺間敷コトナリ聖人ノ仰ニハ内典外典ニワタリタ
マヒテ殊ニ彌陀ノ化身ニテマシマセトモ名ヲ碩才道
人ノキコヘニテラハンコトヲイタミ外ニ至愚ノ相ヲ

(25)

現シ御身ヲ田夫野叟ノ類ニヒトシトコソ仰セラレタ
レヨクコ、ロウヘキコトナリ

一一切衆生ノ往生ハ彌陀如來ノ成就シタマヒタレトモ
衆生カ疑ヒフカクシテ信セスシテ今マテ流轉シケリ
サレハ日光ハ四天下ニアマネケレトモ盲者ハミス日
光ノチラササルニアラス己カ目ノシキタルニヨリテ
ナリソノコトクニテ南无阿彌陀佛ト正覺ナリタマヒ
タルウヘニハ往生ハ決定ナレトモ信セスシテ我等凡
夫ハ生死ニ流轉シケリ

(26)

一神ニモ佛ニモナレヌレハ信仰ナシサレハ熊野伊勢ノ神
主ハ神ヲハ實ニ信セスタ、參ル人ニ錢マイラセヨカ

シト思フハカリナリソレカコトクニコレノ内ニアル
 モノトモノアマリニナレシク思フテ信仰ノ方ハ
 ナシサレハハシメハ手ニテ直シタルモノヲ次第ニ足
 ニテ直スナリアラシクアサマシトクレク仰セアリ
 一念佛ノ流マチナレトモ當流聖人ノ勸化ノ如クナ
 ルハナシサレハ御ス、メニヨリテ信ヲトルコト大果
 報ノ人ナリサレハカ、ル殊勝ナル流儀ヲソシル人ハ
 アサマシキナリシカレハ菩提ヲウマシキヒトハミナ
 專修念佛ニアタヲナストノタマヒシ和讃ノコ、ロヲ
 ソ仰セラル、次ノ句ニ生死ノ大海キハモナシトアリ
 アサマシアサマシトソ

(27)

一先師上人御ウシロニ腫物イテキ侍リシ時顯證寺三位
 蓮淳ニソノ膿血ノイツルヲノコフヘシト仰セアリシ
 ニ杉原ヲ押タ、ミステニ拭ハントセシニ仰セラレシ
 ハ其紙ヲハ何クヨリ出タルトコ、ロエテサヤウニ潤
 澤ニスルソヤト其時三位杉原ヲミツニサキ切テ拭ヒ
 申サル、ナリマタ仰セニカヤウニ仰セ候時ハカリニ
 テハイカ、アルヘキソヨロツコ、ロカケカ本ニテア
 ルソトヨカマヘテ佛法ノ冥加ヲヨク思ヘト
 ソノタマヒケルナリ

一聖教ヲタクミニイカニモ書與フヘキヤウニオモヘリ
 機ヲマモリテ許シ與ルコトナリ世間佛法トモニ總シ

(28)

テユルサヌコトモアルナリ女ノ人ニカクル、ハヨク
人ニオモハレシトナリ聖教ヲオシムハヨクツタヘテ
ヒロメンカタメナリ

一 佛法ニハ捨身ノ行ヲスルカ本儀ナリシカレハタレ人
ニモ恩ニキセテハオモヒタマハネトモ身ヲステ、聖
人ノ御流ヲス、メマシマスト思ヒイレテ信スル人ナ
シト御述懐ノ御心ニ仰アリシナリ先師ホト身ヲステ
、佛法ヲス、メタル人モナキトノ仰セニ侍リキ

一 无导光ノ本尊ヲカケタマヒテコレハ先年炎上ノ時火
ノ中ニアリシナリマハリハカリヤケテ十字ノ分ハ一
字モ焼失セス奇特ナリケルソト仰セアリテスナハチ

ソノイハレヲ裏書ニノセアラハサレテ慶聞坊龍玄ニ
下サレ侍リシナリ殊勝ノコトニ侍リ

一 聖人ノ掟ノコトク信セスシテ末々ノ輩ニアシキコト
ノイテクルハ本寺ノ難ニナルナリ世間佛法トモニヨ
クくツ、シムヘシシカレハマタ信心アラハ佛法モ
立ヘキナリ

一 瑞林庵ニ對シテノ仰セニマモルニヨリテ生モシ死ス
ルニモアラスタ、因果ノメクル相ナリト時ニ瑞林庵
モサヤウニテ候ト申サレケリ

一 神ハ濟度ノ胸ヲコカシ利生ノ袂ヲシホルトイフハ神
ハモト佛ニテ衆生ヲタスケタクオホシメセトモ衆生

ノマヨヒニヒカレテ神トナリタマフニヨリテ三熱ノ
クルシミヲ受タマフナリ利生ノ袂ヲシホルトイフハ
タ、チニ佛ヲ信セスシテ神ヲ信スルヲカナシミタマ
ヒテナケキタマフトシメスコ、ロナリ

一開山聖人ハ彌陀如來ノ化身ニテマシマセトモ愚禿ト
ナノリタマヒキサレハ天子へ僧ニアラス俗ニアラス
禿ノ字ヲモテ姓トスト奏聞アリケリ

一延徳二年十一月ノ報恩講ハ將軍家常徳院贈相國義倫

江州へ進發ノ砌ニテ京中ソノホカモヨロツニ諸宗ト
モニツ、シミアリシ時節ナレハトテカネテヨリノ仰
セニテイカニモヒソカニ勤行等アルヘキトノ御タク

ミナリシカルニ廿一日ノ夜群集セシカハ法敬坊順哲
ヲ御使トシテ仰セラレシハカネテヨリ仰セラソムキ
ミナ〜 參集セラレ候ハシカルヘカラスト申シヒロ
メラレケレトモ退散セラル、人モナカリキ然ル時ニ
カサネテ慶聞坊龍立ヲ御使ニテ仰セアリシハ往古ヨ
リイマニ一年モカ、サレサル勤行ヲカ、シヤフルハ
カタ〜 面々ノ仰セラヤラル、間勤行アルマシキ
ナリ下向アリテヒソカニ勤行アルヘキナリシカレト
モ仰セナリトテ祗候アリテ勤行カ、セ申サルヘキカ
御返事申サレヨトアリシトキミナコト〜 ク下向ア
リテオホシメスコトクニ勤行ヒソカニ侍リシナリシ

カレトモ日々ニナヲ〜次第ニ老少男女群集カキリ
ナクシテ七晝夜ノ間無爲ニマシマシテ結願成就シタ
マヒケリ一七日ノ間ニ法談ヲノ〜感涙ヲモヨホシ
仰セニヨリミナ〜信心決定アリシコトナリ

(33)

一我ハワカキ時ヨリイカナル藝能ナントモタシナマハ
サコソアランスレトモ若年ノ頃ヨリ今八旬ニ及マテ
ノノソミニハタ、一切ノ衆生彌陀ヲタノミ佗力ノ信
ヲエテ報土往生アレカシトハカリノ念願ニテ今七十
七歳ヲヲクリタリ其外ハサラニ別ノソミニナシトノ
タマヒシナリ聽聞ノ老少ミナ〜涙ヲナカシ申サレ
ケリシカルニ其後ノ夜丹後法眼蓮應于時橋宿所ニテ去

夜ノ仰セ忝キムネヲ龍立順誓空善等ニ申シイタシテ
カ、ル御慈悲ナレハコソコノ上人ノ御代ニハ九州奥
州蝦夷カ島マテモ法流ノヒロマリ繁昌アルコトソト
ヲノ〜モ不思議ナリトテ歡喜ノ袖ヲシホリケル延
徳三年ナリ

(34)

一或夜ノ仰セニ我ハ身ヲステタリソノユヘハ玄康法印
巧如圓兼法印上人存如モ時々形儀ヲモ聲名ヲモガタクヲ
シヘマシ〜シカトモ又田舎ノ衆ニテモ常住ノ衆ニテ
モ對座ニテ一首ノ和讃ノ心ナントヲモ仰セキカセラ
レタルコトハナシシカルニ我ハ玄冬ノ寒夜ニモ又三
伏ノ夏ノ夜蚊ニオホクセメラレテモ平座ニテ誰々ニ

モ對シテ閑談スルモ佛法方ノ不審ヲモ出言テ人アレ
 カシトオモヒ信心ノ行者一人モ侍レカシトオモヒ辛
 勞ヲカヘリミス堪忍セシムレトモサツト思ヒ入タル
 トモカラ一人モナシ結句冬ナレハサムキニ早クイネ
 ヨカシナシトハカリニテ各イテムリ居タル體ナリサ
 ラニ各々ノタメニカク辛勞ストモ思フ人ヒトリモナ
 シサレハヨヒヨリ枕ヲカタフクルコトナシマシテ晝
 寢ナント、イフコトモセスタ、佛法ヲタシナミ後生
 ヲ一大事ト思フハカリナリトソ仰ユト侍リシナリ
 一親鸞聖人ノ仰セニハワレハ人師戒師トイフコトスマ
 シキト法然聖人ノ御前ニテ御誓言アリケリ誠ニ殊勝

ナルコトナリトテ其比ノ人々モ感セラレケルト仰セ
 出サレテ御感アリケリ又諸宗ノ儀ニハ名聞ナクテハ
 佛法タハストイフテ慢ノ字ヲカキテマモリニカクル
 トイヘリサレハ大ニ各別ナルウシロアハセノコトナ
 リトソノタマヒケル
 一我往生シタラン後ハ誰人カ子ンコロニイフヘキソ今
 イフトコロ何コトモ金言ナリヨク、コ、ロウヘシ
 トクレ、仰セコトアリキ
 一大仁ハ小人ニ身ヲモテハソノ家ヲウシナフ小人ハ大
 仁ニ身ヲモテハソノ身ヲウシナフトイフコトアリ
 一加州ヨリ越前ノ吉崎ノ坊ニイタリ又河内ノ出口城州

山科ノ坊ニテノ御文ノ御作分ヲコトク慶聞坊ニ
ヨマセラレ御聽聞アリテ仰セニハ我作タルモノナレ
トモ殊勝ナリトソ仰セラレケル誠ニ經論ノ肝文祖師
ノ金言ヲ撰出セサセタマヒタレハ末世ノ愚鈍ノ衆生
コノ御詞ニヨリ信心決定ノ人數イテキタリソノ數ヲ
シラスアリカタキ御勸化トソオホエ侍ヘル

一諸宗ノ人々ハ諸堂神前ニテハ禮拜シ參錢ナトマイラ
セ信仰セルニ當宗ノ門人ハ雜行トイヒテ禮拜モセス
ソラメニテ侍ヘルコトサナカラ真宗ノスカタヲ佗宗
ニアラハスコト掟ニソムクナリアサマシキコトナリ
又本尊御影前ヘマイリテオカミヤウノイカニモ龜相

ニシテ信仰ノ體モナシステニ經ニハ五體ヲ地ニナケ
テ拜セヨトモ又頭面ニ禮シタテマツレトモアリ何モ
クチカヒタリトソ仰セケル

一マタアルトキ仰セコトニ我ホト名號カキタルモノハ
日本ニアルマシキソト仰セケル時ニ慶聞坊申サル、
ヤウハ三國ニモマレニアルヘク候ト申サレケレハサ
モアリヌヘシトソ仰セラレケルマコトニタクヒナキ
コト、ソオホエ侍ヘル

一先師上人文明十九年正月ニ夢想ノ告マシクキ今年
マタ御物語アリケリシカルニ法然聖人親鸞聖人行列
シタマヒケル御跡ニ先師モ行列アリケルニ先師ニ對
シマシクテ法然聖人ノタマハク當流コソ實ニ繁昌
ニテ候ヘサレハ望ノコトク予カ衣ヲ墨染ニナシテ候
ヘハイマコソ一心專念ノ文ニアヒカナヒ候ヘトノタ
マヘリト夢想ノ告マシクケリ不思議トオホシメシ
テ明日東山知恩院へ法光寺慈願ヲ御使トシテ東山へ參
テ何事カアル法然聖人御衣ハ何色ニテ御座シ候ソ見

山科連署記末

一先師上人文明十九年正月ニ夢想ノ告マシクキ今年
マタ御物語アリケリシカルニ法然聖人親鸞聖人行列
シタマヒケル御跡ニ先師モ行列アリケルニ先師ニ對
シマシクテ法然聖人ノタマハク當流コソ實ニ繁昌
ニテ候ヘサレハ望ノコトク予カ衣ヲ墨染ニナシテ候
ヘハイマコソ一心專念ノ文ニアヒカナヒ候ヘトノタ
マヘリト夢想ノ告マシクケリ不思議トオホシメシ
テ明日東山知恩院へ法光寺慈願ヲ御使トシテ東山へ參
テ何事カアル法然聖人御衣ハ何色ニテ御座シ候ソ見

テ來ルヘシトテツカハサレケリ法光ヤカテカヘリマ
 イリテ申サレケルハ聖人ノ御衣ハ墨染ニテ御座候ト
 ソ申サレケル其時先師ノ仰セニ根本墨染ニテ御入候
 ヲ近年香衣ニ黄色ニ彩色セラル、コトイハレヌコト
 、思ヒツルナリ今墨ノ衣ニテ御本意ナルヘシトソ仰
 セケル其後先師上人知恩院ノ當住持ニ對談アリテ聖
 人ノ御衣イツノコロ墨染ニハ直シ申サル、ソヤト
 御尋アリケレハ知恩院ノ當住號長老返答ニイハク其
 事ニテ候先年光儀ノ時仰セヲカウフリシハ根本墨染
 ノ御衣ニテ御座候ハンスルカ御本意タルヘキヨシヲ
 法印仰セラレ候シ間カクノコトクナヲシ申候仰セノ
 (2)

コトクモトハ墨染ニテ候シヲ前住大譽ノ代ニ香衣ニ
 ナサレ候ヲ今仰セニヨリテ墨染ニナヲシ申テ候ソト
 申サル先師マタイハク當寺御繁昌ノ瑞相ニテ目出度
 存候トソ仰セラルスナハチ聖人御衣ノ色ノ御祝言ニ
 鳥目千疋住持へ進セラレヤカテ先師モ山科へ歸寺シ
 タマヒヌ然ルニ明日禁中ヨリイカナル御告カオハシ
 マシケン法然聖人へトテ金一包贈遣セラレケリ聽テ
 知恩院ノ御影堂以下造立アリテ繁昌セシコロナルカ
 先師上人又知恩院へ光臨アリテ住持モ出ラレ雜談ア
 ルトコロニ知恩院住持申サセタマヒケルハ法印ノ仰
 セニカナラス當寺繁昌アルヘキト候ヒシカ其明ル日
 (3)

禁裏ヨリ御信仰ニテ過分ノ御奉加ニヨリ當寺造立仕候仰セモトモ不思議ニ候トソ申サセタマヒケル

- 一 延徳四年壬子五月ノ初頃河州出口ノ坊ヨリニハカニ先師上人早天ニ上洛セサセタマフヘキトテ光善寺ヲ出タマヒテハヤ京近クナラセタマフニ大雨シキリニテ出口ノ坊ノ長押マテ淀川ノ水出テ洪水ツキニケリカ、ルトコロニ出口ノ人々ハ般ニノリテ所々ヘユキケルホトノコトニテ侍ルニ先師上人上洛モニハカノコト各々不思議トソ申アヒケル
- (4)

一 アルトキノ御物語ニ細川右京ノ大夫勝元號龍安寺臨終ノ時カノ友人秋場ヲヨヒテ我死ストモ大法師也右京

太夫カアル間何事モアヒカハルヘカラス愛宕ヘ祈テマウケタル子ナリ母ノ枕ニ聖徳太子マシクテ七日メニ懷妊シタリカナラス威勢ハアルヘキソト密ニイサハレタリレハ九郎事大心院モ當寺ヘ内外ナク等閑ナカリキナリトソ仰セケル

- 一 延徳四年五月ノ初頃近松ノ坊ヨリ厚ホウノ木ノ花五ツサキテ實ヲ具シタルヲ持參アリケルニ仰セケルハ東山殿慈照院贈相國ハ厚カシハ一花サケルヲ御覽シテ
 フタツトモミツトモ咲ヌ花ナレハ
 タ、一乗ノ法柏カナト
 ヨマセタマヒヌマタコレハ本願ニヨソヘテトテ
- (5)

厚ノ木ニ實コソナリヌレ世ノ中ニ
ヒロマルモノハ彌陀ノ本願ト

アソハシケル誠ニイツ、サケルモ不思議ナリタ、佛
法繁昌スヘキ瑞相ナリト仰セケル

一同夏頃ハ疫癘アリテ人ノオホク死スルコトアリシニ
病ウツルニヨリテヤミモシ死スルコトニテハナシタ
、因果ニテ病ミモシ死ニモスルナリト仰セアリテヤ
カテ當座ニソノコトハリヲ御文ニ作ラセタマヒテ順
誓ニアソハシキカセラレ候キ

(6)

高田專修寺ヨリ即得ト即便トハオナシクラキナリト
コ、ロエ候本願寺ニハ別ニ沙汰候トキケリ當流へ此

義申シカ、ルヘキヤウノ沙汰ノ侍リシ内議申スコト
ノアリシヲ空善ウカ、セ申サレケレハ仰セニハ无益
ノ問答ナリ何トシテモ一人ツ、モ當流へハ參スル輩
ノアルヘシ高田へハユクヘカラスカマヘテカマヘテ
問答无益トソ仰セコト侍リケル

一開山聖人ノ仰セニ舟ニエヒマシ、シユトアリシト
キ陸路アルトコロヘハ舟ニノルマシキナリト又クサ
ヒラニエハセタマヒシコトアリツルニソノトキモ茸
ハ喰マシキモソナリト仰セラレ候ヒキノトキヨリ
高田ノ顯智ハ一期ニ舟ニノラス茸ヲクハストイヘリ
サレハ暫時モ仰セノ候ヒシヲハ信シテタカヘス候ヒ

(7)

キ今六仰セラナキハニシテ眞實ニ思ヒイレテ仰セ
 ラ信スル人ナシト仰セケルハ其ノ意ハ如何ニシテ
 一淨徳寺慶慧加州住木審申サレシハ本願ニ八十念ト誓
 ヒマシマス成就ヲ文ニハニ念ト成モテシタルヲハ何
 トコハ口ニ申ヌヘキヤ仰セユハサレバ乃至ト何レニ
 一信アリ中ヲ略スルナリシカレトモ聖人ノ流義ニハ一
 念發起肝要ナリト云フハ如何ニシテ
 一諸行ハ自力ニテタノミテコソ信力モアヲハルハナリ
 ト立タリコノ一流ハ始終トシト信力ナリト心ニ彌陀
 ヲタノムモ我流シロクテタノムニアラス過去ノ宿善
 三ヨリテタノムニハニ始メ終リテナ信力ナリト云フハ

(8)

一誰カハシメタルトコロヘユクヘキン无始ヨリコノカ
 タ生レヌトコロモナクウケヌ形モナキニコノタヒ信
 心ヲ決定シテ淨土ヘマイルヘキハハシメタルトコロ
 ナリ三有ヲメクリハテタル身ナリト仰セラレケルニ
 老若參集ノ人ミナノ落涙カキリナシト云フハ如何ニシテ
 一三恒河沙ノ諸佛ノ出世ニモアヒイカホト菩提心ヲオ
 コシタリシカトモ自力カナハス无始已來流轉セリ今
 モ聖人ノ御ス、メノコトク決定ナクハ又流轉センコ
 ト淺間敷ナリト仰セ候ヒテソノ敷居ソソナタニ往生
 スヘキ人四人カ五人カアルヘキカ五人マテハアルマ
 シキカト仰セ待リキコノコト明應元年七十霜月廿六

(9)

日ニ非時ノ座敷ニテノ仰セナリシカルニ若狭ノ國ノ
 人ニ次郎三郎ト申ス人コレヲ聽聞シテ四人五人ノ人
 數ニアラスハイカ、スヘキソト打案シテミナノ下
 向スレトモ下向スヘキコトヲモワスレテコ、ロエタ
 ルトコロノ安心ヲ申シアケテハトオモフホト二十二
 月二日ニ南殿ニテ改悔ヲ申上侍リキ仰セニハ改悔ハ
 タカハスサリナカラ各々口ニハ申セトモ心ヘオチツ
 カヌモノナリコトハノコトクナラハ往生スヘキナリ
 トソ仰セラル

一安藝法眼蓮宗住加州アヤマリヲナラシタルムネヲ門徒
 ノ面々ニツイテワセコト申サハ御免許モアルヘキヲ

(10)

細川立番頭ヲモテ權家ニツイテ申上ノ條ユルシマシ
 マサヌヨシノ仰セニソ侍リケル

一自力ノ念佛トイフハ念佛多ク申テ彌陀ニマイラセテ
 罪ヲ消シ失ントノコ、ロナリ一流ノ義ハ彌陀ヲタノ
 ミタテマツリテ彌陀ニタスケラレマイラセテノチ御
 タスケアリカタサヨト思フコ、ロヲ口ニ出シテ南无
 阿彌陀佛ト申スナリタ、我ヲタスケタマヘルスカタ
 スナハチ南无阿彌陀佛ナリトコ、ロエテヨロコフハ
 カリナリトカヘスノ仰セラレ候ヒキ

一遇獲信心遠慶宿縁ト聖人ノアソハシタルハタマノ
 トイフハ過去ニアフトイフコ、ロナリマタ遠ク宿縁

(11)

ヲヨロコフトイフハ今ハシメテウル信心ニアラス過
去遠々ノムカシヨリ以來ノ御慈悲ニテ今ウル信心ナ
リサレハコソ今ウルコトハ申スニオヨハス遠ク宿縁
ヲヨロコヘトイフコト實ニ不思議ノコ、ロナリシカ
レハ遠ク慶ヘトイフコトニ心ヲト、メテ仰信スヘキ
ナリマタ遇トイフ字ヲタマ^レトヨマセラル、コト
肝要ナリト蓮誓光教寺 蓮淳顯證寺 蓮悟本泉寺 ナトモ仰セヲ
承ルト常ニ物語候ヒキ

(12)

一 法然聖人ノ仰セニ我菩提所ヲハ造ルマシキナリ我跡
ハ稱名アルトコロスナハチ我跡ナリト仰セラレケリ
マタ跡ヲトフラフトイフテ位牌卒都婆ヲタツルハ輪

一 廻スルモノ、スルコトナリト仰セラレケル

一 アルトキノ仰セニ御身ノ御母ハ西國ノ人ナリトキ、
ヲヨヒ候ホトニ空善ヲタノミ播磨マテナリトモ下シ
タキナリ我母ハ六歳ノ時ステ、ユキカタシラスナリ
タマヒシニ年ハルカニヘタテ、ノチ備後ニマシマス
ヨシ四條道場ヨリキコエ コレニヨリテ播磨ヘクタ
リタキト云ケレハ空善ハシリマハリ造作ナト仕候由
ノ間命アラハヒトタヒクタリタキナリト仰セラレ侍
リキ

(13)

一 御堂衆信心イカニモヨクトラレ候ラント田舎ノ人ハ
生佛イキホトケノヤウニオモフナリシカルニ无道心ナリアサマ

一 信心ヲシカトトリタル人スクナシソノトキ南殿ノ椽
 へ尾張ノ巧念マイリタルヲヤカテ仰セニアノ巧念ナ
 シトコソヨクく末ノ人ナレトモ信ヲトリ河野九門
 徒ヲモ取立ナントシケレハ末々ノモノナレトモ信心
 ノアルニヨリテ座敷ヲモアケタリヨクく分別アル
 ハシト當住^實上人^如へモ御申シアリケリ
 一 信心ノナキモノヲミレハヒトへニカナシキナリマタ
 佛法ヲツロクアツカヒフルマフ佛法ノアタヲナス人
 ヲキケハヤムコ、チセリナヲカナシキナリ
 一 信心決定スル段ヲハ次ニシテ御恩シレトミナイヒケ

(14)

一 御恩ヲシレトイハシヨリハ信心決定シテノウヘニ
 ハタ、アラタフトヤヤアラリカタヤトオモフ心ヲ
 モチテ念佛申ススナハチコレ佛恩ナリト仰セラレ候
 ヒキ
 一 衣墨クロニスルコトシカルヘカラス衣ハネスミイロ
 ナリ凡夫ニテ在家ノ一宗興行ナレハ何クマテモ上下
 タフトケセヌナリ衣ノ袖長クタケモ長スヘカラスト
 仰セラレケリ
 一 信ノナキ者ニアフマシキトイハワレヲ二束三枚ニ
 シテ押テ我前へ信ノナキ者ヲツレテクルヨト仰セラ
 レキ

(15)

一六月十三日曉ニ先師上人ヨリ小五郎ヲ御使トシテ能
 ヲサセラル、ナリ空善マイリ見ルヘシト仰付ラルカ
 シコマリテイラレケル明日堺衆マイリ能ヲツカマツ
 リ候十五日ハ北殿ヨリサセラレケル十六日ニハ坊主
 衆ヨリサセ申サレシ其能ノ狂言ニ鶯ノ鳥指トテ太刀
 刀ノ落ルヲモシラス人ノシカルモ耳ニイラス鳥ヲ指
 スニ念ヲ入タルヲ御覽セラレ世間假リノ事タニモ念
 カヲ入子ハナラス況ヤ佛法ヲヤトテ念ヲイレテコソ
 ト面白ク思召テ明ル日ノ能ニモ召カヘサレテ鶯ノ狂
 言ヲサセラレケリ

(16)

一七日ニハ光闍坊參上アリ仰セニイハクヨク上リタリ

カナラス我ハ往生スヘシ今一度生顔見テハト仰セラ
 レケレハ各落涙アリ當住大納言殿モ御涙ニムセハセ
 タマヒケリ

一ワレ信ヲ取テ人ニモ信ヲトラセヨ我奥州へ下向ノ時
 一人聽聞シテヨロコヒシ其仁モシアルヤト御尋アリ
 夫婦トモニ信ヲエテヨロコフヨシ聞召シテ二日路ノ
 間ヲ御下向アリシカルニカノアルシ御下向ハカタシ
 ケナク候カ何ヲカ供御ニツナヘ申スヘキト悲ミケリ
 コレヲ聞召テ汝等ハ何ヲ食スルソト御尋アレハ稗ト
 申スモノハカリ食スルヨシ申ス時汝等食スルモノヲ
 コシラヘテマイラセヨト仰セアリケレハ稗ノ粥ヲ調

(17)

進シタリケルヲキコシメシテ一夜御物語アリテ聽聞
 サセラレケリト仰セラレケリサレハカヤウニ御身ヲ
 ステラレ御辛勞アリテモ御勸化アリツルカタシケナ
 サヨト思ヒタテマツリテ空善コレヲ記シヲケリ
 一四月上旬ヨリ去年ノコトク又御不例ニテ慶道醫師ニ
 マイル十七日ニハ半井ナカラマイル十九日ニハ板坂左近
 將監マイル服藥トモタテマツル御食物ニハオモユハ
 カリナリ
 一五月廿五日御堂へ御參アリ同廿八日ニハカタクミナ
 申止ママイルイラセ晨朝御不座日中ニハ御出仕御式
 文一段アソハサレ次ヨリ大納言殿アソハシ候五月廿

(18)

七日ヨリ六月朔日マテ六日御不座

一六日姉小路中納言殿上池院ヲ醫師ノタメニ召具セラ
 レ御出アリケリ
 一御堂ノ南ノ方ノ座上ニ先師上人御著アリテ北ノ座ニ
 ハ當住大納言殿ヲ置申サセタマヒケリ
 一有時田與ニ召テ勤行ニ御出ナサレ勤行終テ御立ノ時
 門徒ノ面々名殘オシキナリト仰セアリテウシロサマ
 ニ御興ヲカ、セラレ各々ヲ御覽セラレテ御カヘリア
 リ各々モカタシケナク思ヒ申サレケル
 一明應七年潤十月十六日ノ夜御文十通ハカリ慶聞房ニ
 ヨマセラレ聞シ召レテ一念ノ信心ノシカト取詰候へ

トカヘス、仰セラレキ

- 一 大坂ノ坊ヲ建立スルハモシ信心ノヒトモ出来候ヘカ
シト思テ立ルナリサレハ三井寺焼ケレハ再興シテ繁
昌シケリソノトキ寺ノ法師ノ夢ニコレニヨリテ生死
ヲハナル、コト肝要ナリ焼タルニヨリテ後生ノコト
オモフモノ多カリケレハ寺建立ヨリ後生タスカルヤ
ウニ建立シタキヨシ新羅明神ノ本意ナリトノ夢ニモ
アリソノコトク寺中繁昌スルトモタ、信心ヲトル人
ナクハ何ノ篇ナキコトソト仰セラレキ
- 一 コノ流義在家ニテ建立アルニヨリテ平等ニ繁昌スル
ナリト仰セタリ

(20)

(21)

- 一 改悔スヘシトイヘトモ心中ヲアリノマ、ニイハサル
モノハマコトニ无宿善ナリト仰セコトアリ
- 一 御文ノコトハ文言オカシクシテテニハアシク侍リシ
カトモモシ一人モ信ヲエヨカシト思フハカリニテ書
ヲキハヘリテニハノワロキハ我トカトイヘト仰セラ
ル
- 一 有時サマ障子ノ内へ空善ヲメシテ仰セニアカヌハ君
ノ仰セトイフコトノアルハトハカリ仰セラレテ應テ
圍爐裏ノキハニ御平臥アリシコトアリ
- 一 信心ヲエタル人ハ我身ノ弟ナリト仰セラレキ
- 一 明應八己未二月御往生一定ニテアルヘキ様ニ談合ニ

テ葬處マテ用意アリツルカ俄ニ時宜カハリ山科へ御上洛アリテ御往生アルヘキヨシニテハヤ十八日ト定ラル用意ノタメニ空善ヲ十六日ニ登セラレタリ御迎ナト下向シテ十八日ニ御立アリテイカニモシツカニ道中三日ニ御登リアリ廿日ニ野村本願寺ノ常ノ座敷ニ御休息アリケリ

一同廿一日開山聖人ノ御影前へ御參アリ御前ニテノ仰セニ御目ニカハリタク存候ノトコロニタ、イマ御目ニカハリ申スコトカカ、アリガタク申スハガリナク候ト高ラガニ仰セラレキ

一同廿二日ニハ御往生ノ場所造作アリ

一廿五日ニハ四方メクリノ土居ヲ御覽セラレ堀ノ上ヲ乗物ニテ御廻リアリ伊勢ノ宿ノ土居ニ御輿ヲタテ水ヲ召上ラル空善新キ茶碗用意アリテ調進セシメケリ尤モ殊勝ナリキ

(23)

一廿七日ニ又御堂へ御參アリ御立ノトキ門徒ノ人々ニ名殘オシキト仰セラレ又田與ヲウシロサマニカ、セ諸人ノ方ヲ御覽セラレタリ

一廿九日ニモ堀ノ土居へ御出アリキ

一三月朔日ニハ北殿へ御出アリ御亭ニテ大納言殿以下御兄弟同座ニテ御物語ナサレ城菊檢校參リ種々御咄シ申上ケリ

一御遺言ニテアルソ一念ノ信心ヲヨク〜トルハシト

ミナ〜兄弟中へ別シテ仰セラレキ

一二日ニハ花ヲ御覽セラレタキヨシ空善申付ヨト下間

駿河申サル、アヒタ走り廻リテ花ヲ切テ進上ス

醫師ニハ藤左衛門參ルナリ又誓從參リケリ

一三日ニハ吉野ノ花ヲ人ノ折テ參ラセシヲ御覽セラレ

御詠歌ニ

咲ツ、ク花見ルタヒニナヲモマタ

タ、ネカハシキ西ノ彼ノ岸

オヒラクノイツマテカクハヤミスラン

迎ヘタマヘヤ彌陀ノ淨土へ

今マテハ八十シ五ニアマル身ノ

ヒサシクイキシトシレヤミナヒト

一七日ノ曉脈ヲ自ラトラセラレチカフトコロアリト仰

セラレ藤左衛門尉ヲ召テトラセラレ胃氣ノ御脈アシ

キヨシ申上候ナリ

一七日ニハ聖人へ御暇乞トテ行水ナサレ御衣裝ヲ改メ

ラレ田興ニテ御堂ノ南ヨリ阿彌陀堂へ御參アルトテ

花ノ下ニ御輿ヲタテラレマツシハラク花ヲ詠メサセ

タマヒテ御氣色ヨクテサテ阿彌陀堂へ御參アリ本尊

ニシハラク御向アリテ御カヘリニハ庭へカキマイリ

面テヨリ開山聖人へ御參リ御輿ナカラ上檀へカキイ

レマイラセケルニ仰セアリケルハ極樂ヘマイル御暇
 乞ニテ候カナラス極樂ニテ御目ニカ、リ申スヘク候
 ト高ラカニ御申シアリシカハ數萬人ノ衆一同ニ涙ヲ
 ナカシ隨喜シテ敬ヒカキリナカリケリ
 一九日ニハ御亭へ御出アリテ法敬房ト空善ト加州ノ了
 珍トメサレテヒサシキ馴染ナレハサソ御姿ヲ見マイ
 ラセタクモ侍ラント仰セラレテイロ／＼カタシケナ
 キ仰セトモ侍リキマタ法敬房空善ヲ御寢所へ近ク召
 寄ラレ何事モ語ルヘント仰セラレ御聲ヲモ承レト仰
 セ下サルマタ仰セニ空善タヒ候鶯ノ聲ニ慰ミタリコ
 ノ鶯ハ法キケヨト鳴ナリサレハ鳥類タニモ法ヲキケ

トナクニヤシテ人閒ニテ聖人ノ御弟子トナリ法ヲキ
 カヌソアサマシキソト仰セラレテ慶聞房何ソ讀テキ
 カセト仰セアリ畏テ御堂建立ノ御文ヲ次第ニ三通ヨ
 ミ申サレケレハアテ殊勝ヤ／＼ト仰セラレケリ兩人
 御傍チカク九日ヨリ廿四日マテ伺候侍リキ
 同日御臨終ト思食ケルカ御枕ノ方一間ノ押板ニ開山
 聖人ヲカケマイラセ頭北面西ニ平臥アリ
 一近頃御自愛ナリシ栗毛ノ馬御覽セラレタキトテ四間
 ノウチタ、ミ二帖アケサセラレテ御寢ナリシキハマ
 テ引寄セラレ御覽セラレタリコノ馬前肢ヲ少シノハ
 シ涙ヲナカシ頭ヲ板ニサケタリ尾ヲ少シモ動サスシ

テタテリシハラク御覽アリケリ傍ニ付添ル空善ヨク
様體ヲ見ケルニ畜類ナレトモ心アリケリ不思議
ナリシコトナリ

一十七日ノ曉時ニ念佛御申シアリ調聲當住和讃三首御
兄弟中各々助音ニテ御申シアリ

一十八日ノ仰セニ構ヘテ我ナキアトニ兄弟中思合セテ
ナカヨカレタ、一念ノ信心タニ一味ナラハナカモヨ
ク聖人ノ流義モ立ヘシト吳々仰セラレキ

一同日ヨリ御脈モ少シナホリ申スヨシ醫師申シケリ

一十九日ヨリオモユモ良薬モイヤト仰セラレマイラサ
リキタ、御念佛ハカリハヤ御往生アリタキトノ

御念願トソ仰セ侍リケル

一廿二日ヨリ開山聖人ノ御相好ニテ御座候ト御兄弟中
モ見タテマツル各々モ見マイラスルト侍リケリ法敬
房空善モマイリテ同ク見タテマツリケリ

一廿三日御脈モナク候間ハヤ御往生トミナク申合候
ヒツルニ又八ツ時ヨリ御脈イテナホリ申スヨシ醫師
不思議ト申合候

一廿四日ノ曉ニハ往生ノ時分ナリ法敬房空善モソト御
傍チカクマイルヘキヨシ仰セニヨリテ右ノ御手ヲ法
敬房少シ抱テ戴キ申サル空善ハ兩方ノ御足ヲ抱ヘ頂
キ申シケル兩人トモニ心モ目モクレ候ヒシトソ

一廿五日ノ午ノ正中ニ御往生イカニモシツカニ御ネフ
 リ候コトクニ御臨終候ヒキ
 一同日晚景ニハ乗物ニ召シ御堂聖人ノ御前ニテ諸人拜
 セラルコレハ御遺言ナリ人ニモミセヨトノ仰ニテ數
 萬人拜シ奉テ落涙カキリナカリキ
 一葬送ハ來月二日トフレテ俄ニ翌日廿六日ノ日中ニテ
 侍ル中陰如別記
 一茶毘ノ日廿六日ノ朝ト日中ト暮ト三度ツ、日メクリ
 テ五色ノ花二尺ハカリニ廻リノミヘケルカ御堂ノ上
 ニ七日降り下ル大坂ノ坊ノ上ニモ七日ノ間フリ下リ
 諸人目ヲ驚シ侍ルト

一御中陰ハ廿七日ヨリ四月十七日ニ結願ナリ内々ハ五十
 日マテ勤アリ三七日ノ間天氣ヨク中陰ハテ、翌十八
 日大雨フリサレハヨロツ不思議ナルコトトモ甚多シ
 一今度ノ御遺言聊モ違間敷ヨシ堅ク御兄弟中談合アリ
 テ定メラルシカレハ總坊主衆ヘモ一念ノ御遺言ヲシ
 カト決定ナクハアサマシキコトナリ先師上人ヘハヤ
 御請ヲ申サル、上ハシカト信心ヲ決定シテ佛法興行
 ナクハ御住持ヲ御斟酌アルヘキ旨顯證寺ヲ御使ニテ
 諸坊主衆ヘ仰出サル、アヒタ各忝キヨシ御請申シケ
 リ

明應八己未三月廿八日

朝暮御聽聞難有存故
同行如是申定候是偏
蓮如様爲御恩報謝也

慶聞判
圓誓判
駿河判
了珍判
空善判
法橋判
法眼判
慶慧判

別ニ空善日記ト云一冊アリ連署記ノ文ト互ニ出
没セリ故今記ニ闕ルトコロ彼記ヲ以テコヽニ附
録ルコト左ノ如シ

一明應二年正月一日勸修寺村ノ道德ト云人ノマイリタ
ルニ仰ラレケルハ道德ハ念佛申サルヘシ自力ノ念佛
ト云ハ念佛オホク申テ佛ニマイラセテ此申タル功德
ニテ佛ノタスケ玉ハンスルヤウニ思フテ唱ルナリ佗
カト云ハ彌陀ヲタノム一念ノヲコルトキヤカテ御タ
スケニアツカルナリ其後念佛申スハ御タスケアリツ
ルアリカタサヨト思コヽロヲヨロコヒテ南无阿彌陀
佛ト申スコレヲノツカラ我チカラヲクハヘサル

コ、ロナリサレハ佗力トハ佗ノチカラトイフコノコ
、ロナリコノ一念臨終マテトホリテ往生スルナリト
仰コトアリケリ (1)

一南无ト云ハ皈命ナリ皈命ト云ハ彌陀ヲ一念タノミマ
イラスルコ、ロナリマタ發願回向ト云ハタノム機ニ
ヤカテ大善大功德ヲアタヘタマフナリソノ體スナハ
チ阿彌陀佛ナリト仰ラレ候キ

一加州ノ願正ト又四郎覺善トニ對シテ信心トイフハ
彌陀ヲ一念御タスケ候ヘトタノム時ヤカテ御タスケ
アルスカタヲ南无阿彌佛ト申ナリ總シテ罪ハイカホ
トアリトモ一念ノ信力ニテケシウシナヒ玉フナリサ

レハ无始已來輪廻六道ノ妄業一念南无阿彌陀佛ト皈
命スル佛智无生ノ名願力ニホロホサレテ涅槃畢竟ノ
真因ハシメテキサストコロヲサスナリト云釋文ヲ引
キ玉テ仰事候キ仍此コ、ロヲ懸字ニアソハサレテ願
正ニクダシ給ハリキ (2)

一朝ノ勤ノ巡讚ヲワスレ玉ヒシ事アリケリ勤行スキテ
南殿ニテ仰ラレケルハ聖人ノ御作ノ讚アマリニ
殊勝ニオホエテ勤ノアクヘキ所ヲワスレタリト仰事
侍リキサレハカ、ルアリカタキ御ス、メヲ信セサル
ニヨリテ往生スル人スクナシト御述懐アリケリ
一朝ノ勤ノ上ニ五ノ不思議ヲトクナカニノ讚ヨリ盡十

方ノ无導光ハ无明ノヤミヲテラシツ、一念歡喜スル
人ヲカナラス滅度ニイタラシムノ讚マテノ心ヲ御法
談アリシトキ光明遍照十方世界ノ文ノ心ヲ御物語ア
リテ

月影ノイタラヌ里ハナケレトモナカムル人ノ
心ニソスム

トアソハシケル法然聖人ノ御詠歌ヲ引レ御法嘆ヲノ
〜 感涙ヲナカシ申サレケリ先師上人則御立アリテ
ノチニ實如上人ノ仰ニ昨夜ノ仰又只今ノ仰殊勝ナル
旨ヲノ〜モサソ存セラレケメトノ仰アリケリ是又
尤トテ重テ皆袖ヲヌラサレケリ實如上人モ御落涙カ

キリナカリケリ

一三河ノ教賢ト伊勢ノ空賢トニ對シテノ仰ニ南无ト云
ハ皈命皈命ノ心ハ御タスケ候ヘトタノム心ナリコノ
皈命ノ心ニヤカテ發願回向ハ含スルナリト仰セ候ヘ
キ

一佗力ノ願行ヲヒサシク身ニタモチナカラヨシナキ自
力ノ執心ニホタサレテイマ、テ流轉シタルナリト候
存セサル由ヲ空善申サレケル處ニ仰ニキ、ワケテエ
信セヌモノ、事ナリト仰ラレキ

一彌陀大悲ノムネノ内ニカノ常没ノ衆生ミチミチタル
トイヘル事ヲ福田寺不審申サレケレハ仰ニ佛心ノ蓮

華ハ胸ニコソヒラクヘケレ腹ニアルヘキ歟彌陀ノ身
心ノ功德法界衆生ノ身ノウチコ、ロノ底ニ入ミツト
モアリシカレハタ、領解ノ心中ヲサシテノ事ナリト
仰セ候キ皆アリカタシト申サレケリ

(5)

一十月廿八日追夜ノウヘノ仰ニ正信偈和讃ヲヨミテ佛
ニモ聖人ニモマイラセント思フ歟アサマシヤ佗宗ニ
ハツトメヲシテ回向スルナリ一流ニハ佗力ノ信心ノ
コトハリヲ能シレト思食テ聖人ノ和讃ニソノコ、ロ
ヲアソハシタリコトニ七高僧ノ御ネンコロナル釋ノ
コ、ロヲ和讃ニキ、ワクルヤウニアソハシテソノ思
ヲヨク、存知シテアラタフトヤト念佛スルハ佛恩

ヲ聖人ノ御前ニテヨロコヒマフスコ、ロナリトクレ
、仰也

一聖教ヲヨクオホエタリトモ佗力ノ安心ヲシカト決定
ナクハイダツラコトナリ彌陀ヲタノムトコロニテ往
生決定ト信シテフタコ、ロナク臨終マテトオリ候ハ
、皆往生スヘキナリ

(6)

一明應三年十一月廿四日ノ曉丑剋ニ報恩講中ナレハ聖
人ノ御前ニ參拜セシ空善房スコシネフラレケルニ夢
相ヲカウフラレケル事夢ウツ、トモナク御堂ノ聖人
ノ御厨司ノ後門ヨリムシリタル綿ヲヒロケタルヤウ
ノ物ノ中ヨリ先師聖人見ハサセ玉フトコロニ御相好

ヲヨクミタテマツレハ開山聖人ニテ御座スアラ不思議ヤト思ヒヤカテ御厨子ノ内ヲ見奉レハ聖人ハ座サスサテハ開山聖人先師上人ニ現シマシクテ此御一流ヲ御再興ニテマシマスト申出スヘキト存スル所ニ慶聞坊龍玄ノ讚嘆ニ聖人ノ御流儀ハタトヘハ木石ノ縁ヲマチテ火ヲ生シ瓦礫ノ鈿ヲスリテ玉ヲナスカコトシト式ノ文ヲ引讚嘆アルトオホエテ夢サメテ候キ疑ナキ夢想ナリシカシナカラ先師上人ハ開山ノ再誕ニテマシマス事此外現證オホカリキ不思議ナリシ事ナリケリ

一同四年乙卯十一月十九日ニ攝州富田ノ教行寺ヨリ御

(7)

上洛アリテ先師上人仰ニ當年ヨリヒソカニ報恩講ノ事執行ハルヘキ也頭人ハ前ノ日ノホリテ次ノ日下向スヘキトノ仰ナリ御堂ニハ常住衆ト頭人ノ衆トハカリ通夜スヘキナリトソ仰定ラル

(8)

- 一 教化スル人マツ我信心ヲヨク決定シテソノウヘニテ聖教ヲヨミカタラハ聞人モ信ヲ取ヘキナリ
- 一 彌陀ヲタノミテ御タスケヲ決定シテ御タスケノアリカタサタウトサヨトヨロコフ心アレハソノウレシサ
- ニ 念佛申ハカリナリスナハチコレ佛恩報謝ナリ
- 一 近松顯證寺蓮淳ニ對シテ仰ニ信心ヲヨク決定シテ人ニモ信ヲトラセヨト仰ラレキ

一十二月六日ニ富田へ御下ノ由人々ウケ玉ハリテ今夜
 ハ何事ニ人多クキタリタルソト御尋アルニ法敬坊申
 サレテ云此間ノ聽聞アリカタサノ御禮ノタメ又明日
 富田へ御下向ノ由承テ歳末ノ御禮ノタメニ各伺候ト
 申上ラレシカハ仰ニハ无益ノ歳末ノ禮カナ歳末ノ禮
 ニハ信心ヲ取テ禮ニセヨトソ仰ラレ候キ
 一トキ〱懈怠スルコトアリトモ往生スマシキ歎トウ
 タカヒ歎クコトアル人アルヘシシカレトモハヤ彌陀
 如來ヲヒトタヒタノミマイラセテ往生決定ノ後ナレ
 ハ懈怠多ナル事ノアサマシヤカ、ル懈怠オホヤウナ
 ル者ナレトモ御タスケハ治定ナリアラリカタヤア

(9)

リカタヤトヨロコフ心ヲ佗力大行ノ催促ナリト申ス
 ト仰事アリキ

一御タスケアリタル事ノアリカタサヨト念佛申スヘク
 候ヤ又御タスケアラフスル事ノアリカタサヨト念佛
 申スヘク候ヤト空善タツネ申サレケル時仰ニイツレ
 モヨシ但シ正定聚ノカタハ御タスケアリタルトヨロ
 コフ心ナリ滅度ノサトリノ方ハ御タスケアラフスル
 コトノアリカタサヨト申心ナリイツレモ佛ニナルコ
 トヲヨロコフ心ヨク候ト仰ラレキ

(10)

一明應五年正月廿三日ニ教行寺ヨリ先師上人御上洛ア
 リテ山科本願寺ニテノ仰ニ當年ヨリイヨ〱信心ナ

キ人ニハ見參アルマシキトカタク仰ラレキ安心ノ通
 フカク仰キカセラレテ又誓願寺ニ能ヲサセラレケリ
 二月十七日ニ富田ハ又御下アリ二月廿七日ニハ又堺
 ノ坊ヨリ御上ニテ廿八日ハ山科ニテノ仰ニ曰自信教
 人信ノコ、ロヲ仰キカセラレンカタメニ上下辛勞ナ
 レトモカクノ如クスルトコロハ信ヲトリヨロコフヨ
 シ各申スホトニソノウレシサニ又上リタリト仰候キ
 一四月九日ニ仰云安心ヲトリテ物ヲイハハヨシ用ナキ
 コトハ云マシキナリ一心ノトコロヲヨク人ニモ云ヘ
 キナリト空善ニ仰候キトナリ又同十二日ニハ堺へ御
 下向アリキ

(11)

一七月廿日御上洛ソノ日仰ニ曰五濁惡世ノワレラコソ
 金剛ノ信心ハカリニテナカク生死ヲステハテ、自然
 ノ淨土ニイタルナレ此ツキヲモ仰ラレテコノ二首ノ
 讚ノコ、ロヲイヒテキカセントテ上タリト仰候キ自
 然ノ淨土ニイタルナレナカク生死ヲヘタテケルサテ
 〱アラ〱オモシロヤ〱ト仰アリケリ
 一南无ノ无ノ字ハ聖人ノ御流義ニカキリテアソハシケ
 リ南无阿彌陀佛ヲ泥ニテウツサレテ掛ラレテノ玉ヒ
 ケルハ不可思議光佛无导光佛モコノ南无阿彌陀佛ヲ
 ホメタマフ德號ナリ然ハ南无阿彌陀佛ヲ本トスヘシ
 ト仰テレケル

(12)

一十方无量ノ諸佛ノ證誠護念ノミコトニテ自力ノ大菩提心ノカナハヌホトハシリヌヘシコノ讚ノ心ヲ聽聞申タキト順誓申上ラレケリ仰ニ云諸佛ノ彌陀ニ皈セラル、事ヨサレハ諸佛ハ彌陀ニ皈セラル、ヲ能トシタマヘリ

(13)

一世中ニアマノコ、ロヲステヨカシメウシノツノハサモアラハアレトユレハ開山山人ノ御詠歌ナリサレハ形ハイラヌコト一心ヲ本トスヘシトナリ世上ニモ頭ヲソルトイヘトモ心ヲソラヌト云事カアルナリト仰ラレケリ

一鳥邊野ヲ思ヤルコソ哀ナレユカリノ人ノアト、思ヘ

ハコレモ聖人ノ御歌也

一光高丸得度ノ事門跡ニテハ斟酌ノ由シキリニ大納言殿實如ヨリ申サセ玉ヒタ、是ニテ出家サセ申度ノ旨望申サセ玉フ相續ノ義ハ器量ナクテハ如何ノ由辭退申玉フ御使ハ三位蓮淳ナリシカリトイヘトモ先師上人ノ仰ニ昔ヨリソノ例アルコトナリ器量ハイラヌコトナレハト再三堅固ノ仰シキリニテ青蓮院門跡ニテ得度アリ門主ハ准后尊應明應五年八月十五日彼岸ノ結願日ナリ光高丸十八歳歟門跡ヨリ得度アリテ皈寺其夜丑剋ニ返リヤカテ南殿へ御禮トシテ參玉フ大納言殿モ御參三位蓮淳同座席ニ侍リ祝言ノ勸盃再返先

(14)

師上人モ御機嫌カキリナク御満足ノ氣色顯然ナリヤ
カテ又其曉ヨリ先師上人ハ堺へ御下向ナリ

一同九月廿日開山聖人ノ御影空善ニ御免許歡喜渴仰キ
ハマリナシ

一同十月ノ報恩講ノ廿五日ニ開山ノ御傳ヲ先師自身ア
ソハシテ則法談アリ諸人アリカタサノアマリ感涙千
行萬行ナリ

一アル時瑞林庵先師上人へ申サレケルハ本願寺ヲワロ
ク思モノハ其人アシク成候法印ノ其モノハワロキ者
ヨト思食者ハ必ソノ罰アタリ候ト申サレケレハ先師
御手ヲハタト打セ玉ヒ我ハ人ニ罰ヲハアテス候ト仰

ケレハ瑞林庵申サル法印ハ強チニワロカレトハ思食
ネトモ當寺ノ御事ヲ惡ク思ヒ申ス者必惡ク成候先度
廣澤方主殿ノ見物ノ望タルニ見セラレヌトテ散々ニ
ワロク申以外ニ腹立仕テ歸京シ明ル次ノ日武家ノ上
意ニ背キノママ高野へ上リ遁世シ侍リキ又堺ノ代
官高西モ同前ノ事ニテ候ヒキサレハ當寺ヲカリニモ
アシク思ヒ惡口放言スルモノ加様ニ罰ヲアタリ候事
ハタ、不思議ト存スルナリト申サレシ時仰事ニハソ
レハサモアル事ノ侍ランスルトソ仰ラレケル其後御
機嫌ヨクテ各雜談申入ラル

一明應六年四月十六日先師上人堺ヨリ御上洛ニテソノ